



文化・読書・スポーツに関する
アンケート調査報告書
【概要版】

令和8年3月

足立区 地域のちから推進部
生涯学習支援室 3分野連携担当課

目次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査名称.....	1
2 調査目的.....	1
3 調査期間.....	1
4 調査の対象・方法・回収状況.....	1
第2章 結果の概要.....	2
1 文化・読書・スポーツにおける関心・行動の実態.....	2
(1) 文化・読書・スポーツにおける関心・行動の定義.....	2
(2) 調査対象別にみる文化・読書・スポーツにおける関心・行動の実態.....	3
2 文化・読書・スポーツにおける行動がもたらす効果.....	6
(1) 人生100年時代を心豊かに生きるための6つの要素.....	6
(2) 子どもの逆境を乗り越える力.....	7
(3) 子どもの自己評価・自己肯定感.....	8
3 文化分野における集計・分析結果.....	9
(1) 文化芸術分野のまとめ.....	9
(2) 文化芸術の実態.....	10
(3) 保護者と子どもの文化芸術に関する関心・行動の関連性.....	16
(4) 関心・行動の傾向から見る文化芸術分野の特徴.....	16
4 読書分野における集計・分析結果.....	18
(1) 読書分野のまとめ.....	18
(2) 読書の実態.....	19
(3) 保護者と子どもの読書に関する関心・行動の関連性.....	26
(4) 関心・行動の傾向から見る読書分野の特徴.....	26
5 運動・スポーツ分野における集計・分析結果.....	28
(1) 運動・スポーツ分野のまとめ.....	28
(2) 運動・スポーツの実態.....	29
(3) 保護者と子どもの運動・スポーツに関する関心・行動の関連性.....	34
(4) 関心・行動の傾向から見る運動・スポーツ分野の特徴.....	34
6 3分野全体の分析.....	36
(1) 3分野を横断した分析まとめ.....	36
(2) 3分野とウェルビーイングの関連性.....	36
(3) 関心・行動の傾向から見る分野間の関連性.....	37
(4) 各分野への関心度と満足度.....	40

第1章 調査の概要

1 調査名称

足立区 文化・読書・スポーツに関するアンケート調査

2 調査目的

区民の文化芸術・読書・スポーツ活動における現状や課題、区の実施等に関する意見を把握し、新しい3分野計画の策定に向けた基礎資料とするため。

3 調査期間

令和7年12月1日（月）～12月26日（金）

4 調査の対象・方法・回収状況

	対象	調査方法	配布数	回収率	質問数
1	16歳以上 一般区民	郵送配布、郵送・WEB回収	3,000件	34.8% (1,044件)	【計】 45問
2	16歳以上 障がい者団体	団体にて調査票を配布、郵送・WEB回収	175件	49.1% (86件)	
3	16歳以上 障がい者個人	施設にて依頼文を配架、WEB回収	100件	0% (0件)	
4	小学校5年生の児童 中学校1年生の生徒	学校にて依頼文を配布・ WEB回収	1,410件	31.5% (444件)	【計】 35問
5	上記児童・生徒の保護者		1,410件	32.1% (453件)	
計			6,095件	33.2% (2,027件)	

第2章 結果の概要

1 文化・読書・スポーツにおける関心・行動の実態

一般区民向け調査 / 小学5年生・中学1年生向け調査

(1) 文化・読書・スポーツにおける関心・行動の定義

文化・読書・スポーツにおける関心の有無及び行動の有無に対する回答に基づき、以下のとおり「無関心層」「関心層」「行動層」に分類し、割合を算出した。

「無関心層」・「関心層」・「行動層」の定義

	関心あり	関心なし
行動あり	行動層	その他
行動なし	関心層	無関心層

各分野における「無関心層」・「関心層」・「行動層」の定義

分野	分類	関心の有無	行動の有無
文化	無関心層	「文化芸術に関心がない」かつ	過去1年間で 文化芸術を鑑賞しなかった
	関心層	「文化芸術に関心がある」かつ	
	行動層	「文化芸術に関心がある」かつ	過去1年間で 文化芸術を鑑賞した
	その他	「文化芸術に関心がない」かつ	
読書	無関心層	「読書に関心がない」かつ	過去1か月間で 本を読まなかった
	関心層	「読書に関心がある」かつ	
	行動層	「読書に関心がある」かつ	過去1か月間で 本を読んだ
	その他	「読書に関心がない」かつ	
スポーツ	無関心層	「運動・スポーツに関心がない」かつ	過去1年間で 運動・スポーツを実施しなかった
	関心層	「運動・スポーツに関心がある」かつ	
	行動層	「運動・スポーツに関心がある」かつ	過去1年間で 運動・スポーツを実施した
	その他	「運動・スポーツに関心がない」かつ	

※文化分野の「行動あり」は「過去1年間で文化芸術を鑑賞した」と定義。

読書分野の「行動あり」は「過去1か月間で本を読んだ」と定義。

スポーツ分野の「行動あり」は「過去1年間で運動・スポーツを実施した」と定義。

(2) 調査対象別にみる文化・読書・スポーツにおける関心・行動の実態

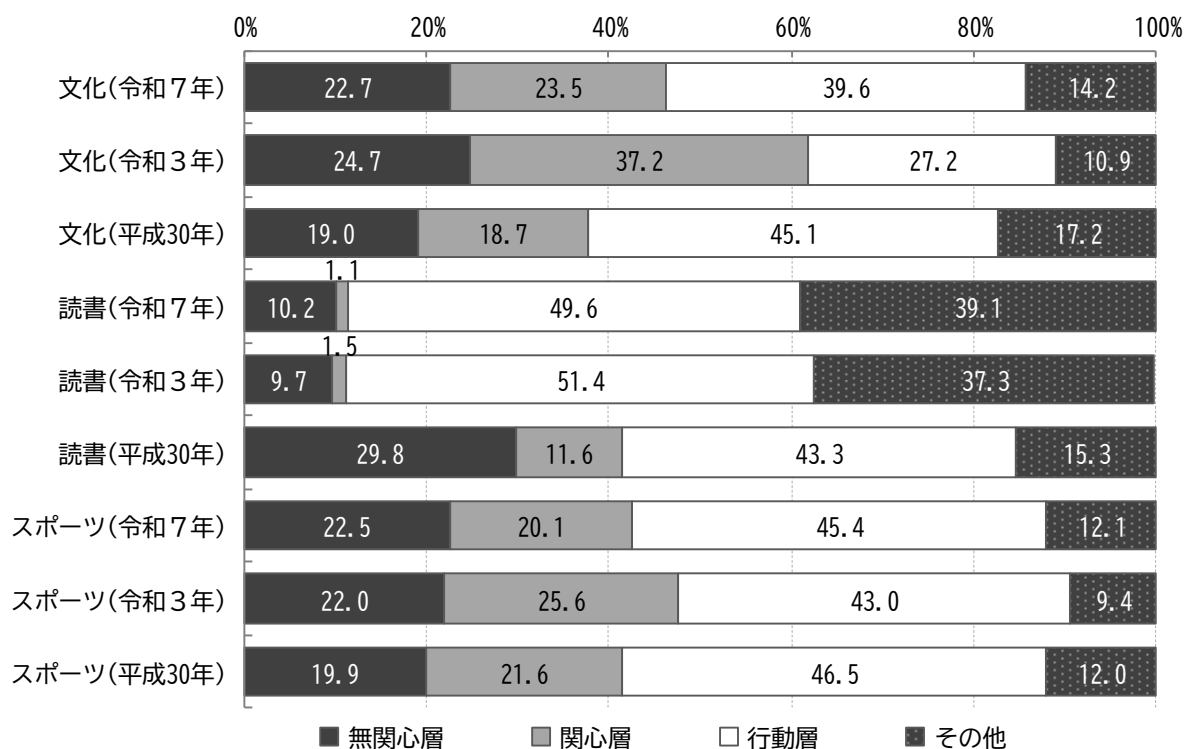
一般区民向け調査

- いずれの分野においても、「行動層」がもっとも高くなっており、文化分野で39.6%、読書分野で49.6%、スポーツ分野で45.4%となっている。

一般区民における「無関心層」・「関心層」・「行動層」の割合

	文化	読書	スポーツ
無関心層	22.7%	10.2%	22.5%
	24.7%	9.7%	22.0%
関心層	23.5%	1.1%	20.1%
	37.2%	1.5%	25.6%
行動層	39.6% ↗	49.6% ↘	45.4% ↗
	27.2%	51.4%	43.0%
その他	14.2%	39.1%	12.1%
	10.9%	37.3%	9.4%

※着色は令和3年調査の結果



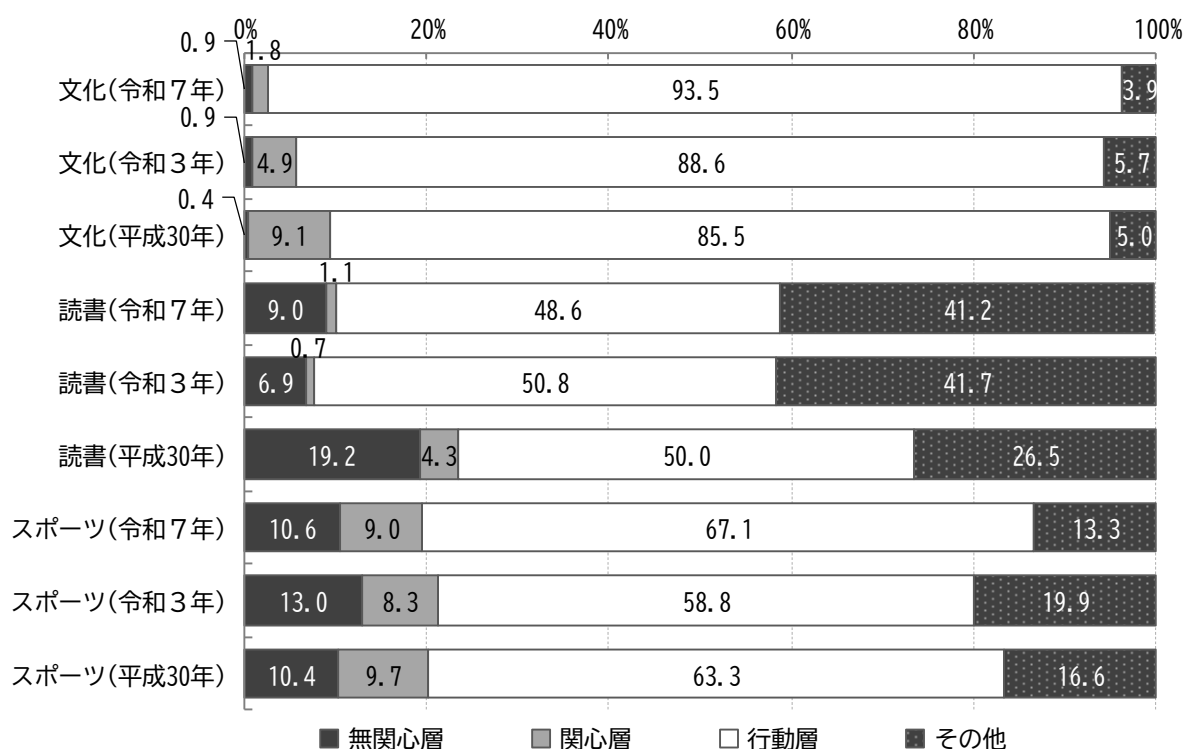
小学5年生・中学1年生向け調査（児童生徒向け）

- いずれの分野においても、「行動層」がもっとも高くなっており、文化分野で93.5%、読書分野で48.6%、スポーツ分野で67.1%となっている。

児童生徒における「無関心層」・「関心層」・「行動層」の割合

	文化	読書	スポーツ
無関心層	0.9%	9.0%	10.6%
	0.9%	6.9%	13.0%
関心層	1.8%	1.1%	9.0%
	4.9%	0.7%	8.3%
行動層	<u>93.5%</u> ↗	<u>48.6%</u> ↘	<u>67.1%</u> ↗
	88.6%	50.8%	58.8%
その他	3.9%	41.2%	13.3%
	5.7%	41.7%	19.9%

※着色は令和3年調査の結果



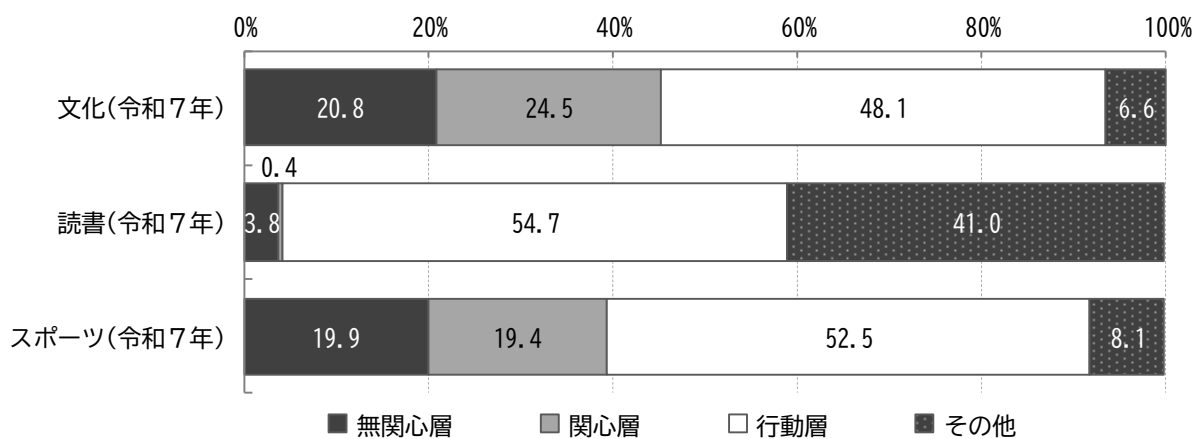
小学5年生・中学1年生向け調査（保護者向け）【新規】

- いずれの分野においても、「行動層」がもっとも高くなっており、文化分野で48.1%、読書分野で54.7%、スポーツ分野で52.5%となっている。

保護者における「無関心層」・「関心層」・「行動層」の割合

	文化	読書	スポーツ
無関心層	20.8%	3.8%	19.9%
関心層	24.5%	0.4%	19.4%
行動層	<u>48.1%</u>	<u>54.7%</u>	<u>52.5%</u>
その他	6.6%	41.0%	8.1%

※保護者向けについては、令和3年調査の結果がないため、令和7年調査の結果のみ記載



2 文化・読書・スポーツにおける行動がもたらす効果

(1) 人生 100 年時代を心豊かに生きるための 6 つの要素

一般区民向け調査

- 人生 100 年時代を心豊かに生きるための 6 つの要素の合計点の平均をみると、すべての分野において「無関心層」よりも「関心層」、「関心層」よりも「行動層」で合計点の平均が高くなっており、「人生 100 年時代を心豊かに生きる 6 つの要素」を有している。令和 3 年調査、平成 30 年調査と同様の傾向がみられる。

人生 100 年時代を心豊かに生きるための 6 つの要素の合計点の平均

	文化	読書	スポーツ
無関心層	19.81	18.94	20.00
	22.20	20.95	18.41
	20.00	21.91	21.04
関心層	22.36	20.50	21.57
	21.15	19.24	20.30
	22.59	20.48	21.43
行動層	23.45	23.28	23.46
	22.27	21.95	22.21
	22.95	23.04	23.00

※着色は令和 3 年調査（上段）、平成 30 年調査（下段）の結果

- 注 1) 人生 100 年時代を心豊かに生きるための 6 つの要素に該当する 6 項目を 5 段階で自己評価させた。
 注 2) 肯定的な回答の「あてはまる」= 5 点から、否定的な回答の「あてはまらない」= 1 点を配点した。
 注 3) 一人の回答者における 6 つの要素の合計点の最小値は 6 点、最大値は 30 点である。

【解説】人生 100 年時代を心豊かに生きるための 6 つの要素について

文化・読書・スポーツの各分野の学識経験者及び専門家、区民、行政で構成する足立区文化・読書・スポーツ総合推進会議（平成 29 年 9 月～令和 2 年 7 月設置）の検討の結果、「人生 100 年時代を心豊かに生きるために必要な要素」を以下の 6 つにまとめた。

- 1 自分のやりたいことに取り組もうとする意欲
- 2 何歳になっても知らないことを知り、学ぼうとする姿勢
- 3 新しいことにチャレンジし、始めようとする好奇心
- 4 まわりの人の役に立とうとする意志
- 5 異なる考え方や価値観を尊重しようとする姿勢
- 6 地域とのつながりを持つこと

(2) 子どもの逆境を乗り越える力

小学5年生・中学1年生向け調査（保護者向け）

- 読書、スポーツ分野において、「行動層」である保護者は、「無関心層」「関心層」である保護者よりも合計点の平均が高く、子どもの逆境を乗り越える力は高いと考える傾向がみられた。文化分野では、「行動層」「関心層」である保護者の合計点の平均は同程度であった。
- 令和3年調査、平成30年調査と比較すると、文化分野、スポーツ分野では、いずれの層においても、合計点の平均が高くなっており、子どもの逆境を乗り越える力は高いと考える保護者が増えている傾向がみられた。

子どもの逆境を乗り越える力の合計点の平均

	文化	読書	スポーツ
無関心層	28.52	28.47	27.62
	24.58	24.65	23.37
	26.00	26.98	26.71
関心層	29.54	20.50	28.71
	24.28	23.86	24.72
	26.86	29.51	28.26
行動層	29.31	28.99	30.03
	29.21	28.87	28.84
	28.39	28.98	28.68

※着色は令和3年調査（上段）、平成30年調査（下段）の結果

注1) 子どもの逆境を乗り越える力に該当する8項目を5段階で保護者に評価させた。

注2) 肯定的な回答の「まったくこのとおり」=5点から、否定的な回答の「まったくちがう」=1点を配点した。

注3) 一人の回答者における逆境を乗り越える力の合計点の最小値は8点、最大値は40点である。

【解説】子どもの逆境を乗り越える力について

文化・読書・スポーツそれぞれの関心・行動の度合いと、保護者に尋ねている子どもの逆境を乗り越える力との関連性をみるために、「子どもの健康・生活実態調査」の尋ね方に合わせ、次の8項目※で尋ねている。

- 1 将来について、明るい面を言うことができる
- 2 自分のベストを尽くそうとする
- 3 馬鹿にされたり、悪口を言われても、うまく対処することができる
- 4 他人にきちんと挨拶することができる
- 5 大人が指示しなくとも、自ら学校の準備、宿題、家の手伝いができる
- 6 必要な時には適切にアドバイスを求めることができる
- 7 将来よい結果となるように、今欲しいものをあきらめたり、嫌なことでも実行することができる
- 8 自分がわからなかったことを知るために、質問をすることができる

※Devereux Students Strengths Assessment (DESSA)を参考に、東京医科歯科大学が開発した尺度 Children's Resilient Coping Scale (CRCS)を引用しています。

引用: Doi S, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, & Kato T. (2018). Association of sleep habits with behavior problems and resilience of 6- to 7-years-old children: Results from the A-CHILD study. Sleep Med, 45, 62-68

(3) 子どもの自己評価・自己肯定感

小学5年生・中学1年生向け調査（児童生徒向け）

- 文化分野では、「関心層」において合計点の平均が高くなっており、自己評価・自己肯定感が高い傾向にある。
- 読書分野、スポーツ分野では、「無関心層」「関心層」よりも「行動層」で合計点の平均が高くなっており、自己評価・自己肯定感が高い傾向にある。
- 令和3年調査、平成30年調査と比べると、同様の傾向が見られる一方で、読書分野ではいずれの層においても、合計点の平均が年々低くなっており、自己評価・自己肯定感が低い傾向にある。

子どもの自己評価・自己肯定感の合計点の平均

	文化	読書	スポーツ
無関心層	25.13	20.75	24.90
	23.00	24.06	22.72
	22.50	25.32	22.85
関心層	26.92	21.20	24.63
	24.08	23.25	23.51
	24.73	26.09	26.04
行動層	25.95	22.10	25.25
	23.83	23.82	24.23
	26.63	26.88	27.45

※着色は令和3年調査（上段）、平成30年調査（下段）の結果

注1) 子どもの自己評価・自己肯定感に該当する10項目を4段階で子どもに自己評価させた。

注2) 肯定的な回答の「はい」=4点から、否定的な回答の「いいえ」=1点を配点した。

注3) 一人の回答者における自己評価・自己肯定感の合計点の最小値は10点、最大値は40点である。

【解説】子どもの自己評価・自己肯定感について

子どもの逆境を乗り越える力と同様に、「足立区 文化・読書・スポーツに関するアンケート調査」において、文化・読書・スポーツそれぞれの関心・行動の度合いと、子どもの自己評価・自己肯定感との関連性をみるために、「子どもの健康・生活実態調査」の尋ね方に合わせ、次の10項目*で尋ねている。

- 1 自分に、自信がありますか
- 2 たいていのことは、人よりうまくできると思いますか
- 3 自分には、人にじまんでできるところがたくさんあると思いますか
- 4 何をやってもうまくいかないような気がしますか
- 5 今の自分に、まんぞくしていますか
- 6 自分はきっと、えらい人になれると思いますか
- 7 自分は、あまり役に立たない人間だと思いますか
- 8 自分の意見は、自信をもって言えますか
- 9 自分にはあまりいいところがないと思いますか
- 10 失敗をするのではないかと、いつも心配ですか

※児童用コンピテンス尺度の「自己価値」を引用しています。

引用：桜井茂男（1992）. 小学校高学年における自己意識の検討. 実験社会心理学研究, 32, 85-94.

桜井茂男（2007）. 児童用コンピテンス尺度 桜井茂男・松井豊（編）. 心理測定尺度集IV：子どもの発達を支える<対人関係・適応>. サイエンス社

3 文化分野における集計・分析結果

(1) 文化芸術分野のまとめ

関心・行動の具体的な実態

- 一般区民における文化芸術への関心は 65.0%であるが、過去 1 年間に行動（鑑賞等）した層は 45.8%にとどまる。
- 関心層（文化芸術に関心はあるが、行動はしていない）が 23.5%であることから、関心層をどのように行動層に移行させていくかを検討していく必要がある。
はじめの一步の行動につながる取り組みとして、ストリートピアノや区内大学と連携したアウトリーチなど、身近で文化芸術に触れる機会を創出することが考えられる。
- 児童生徒の鑑賞率は 96.8%と非常に高く（前回調査より 4.1 ポイント増）、スマホやタブレットなどを使ったオンライン・テレビでの鑑賞（74.8%）と、文化ホールや美術館など直接施設へ行く鑑賞（73.0%）が特に高い。
- 保護者が文化芸術の「行動層」である場合、子どもが鑑賞した割合は 99.3%となっている。また、就学前の文化芸術の体験活動（ワークショップ参加など）をしていた子どもの方が、現在の文化芸術活動を行っている割合が高くなっている。

行動と人生 100 年時代を心豊かに生きる要素との関係

- 文化芸術の行動層は、「自分の住む地域の人たちとつながりを持つと思う」を除く、「人生 100 年時代を心豊かに生きるための 6 つの要素」の 5 項目で他の層より高い傾向にある。また、文化芸術への関心・行動度合いが高い層の方が、足立区に対する「愛着」や「誇り」を持っている割合が高くなっている。

阻害要因と今後の課題・アプローチ

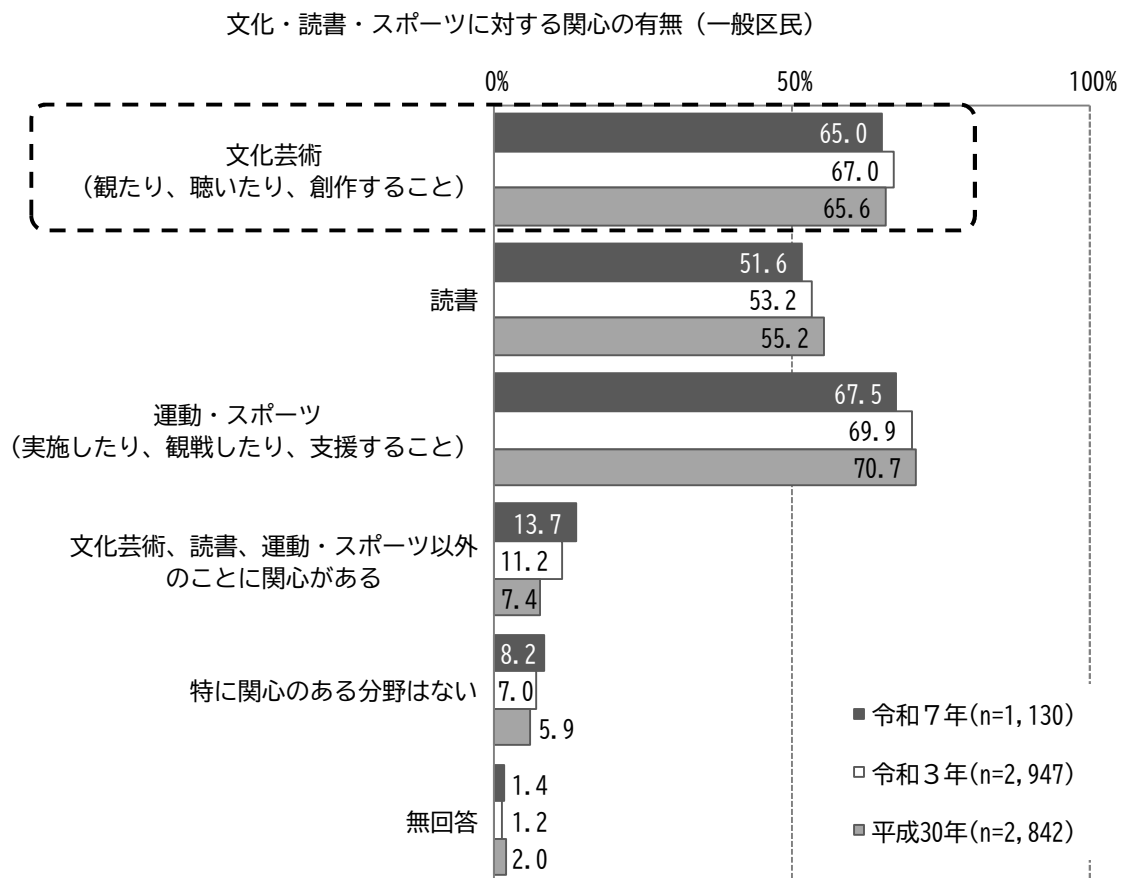
- 文化芸術を鑑賞しない理由は、全体では「特に理由はない（29.7%）」が最も高くなっている。
また、年齢別にみると、30 歳代は「子どもに手がかかるから」、70 歳以上は「年をとったから」が高くなっており、ライフステージごとのハードルが存在している。
さらに、関心があるのに行動していない「関心層」をみると、「お金に余裕がないから（21.1%）」も高くなっている。
- 分野間連携によるアプローチについて、スポーツ分野の関心層のうち、33.5%が文化分野への「関心層」でもある。スポーツイベント等に合わせて文化芸術に触れる機会を提供するなど、スポーツ分野からのアプローチが文化芸術の「行動層」を増やす有効な手段になると考えられる。

(2) 文化芸術の実態

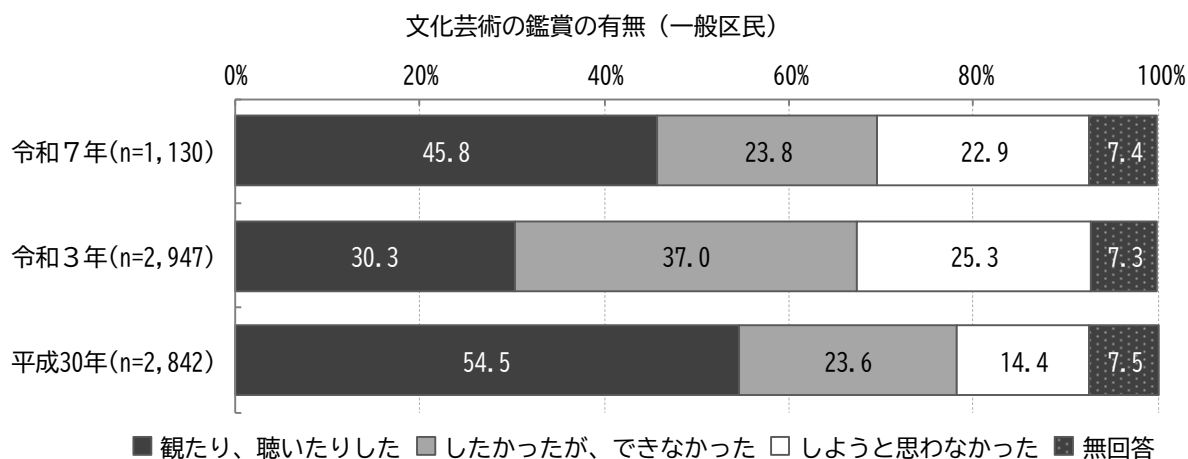
一般区民向け調査 / 小学5年生・中学1年生向け調査

一般区民向け調査

- 「文化芸術」に関心のある人は65.0%となっている。
- 「文化芸術」に関心のある人は、令和3年調査、平成30年調査と比べて、概ね同水準となっており、令和3年調査よりも2ポイント減少している。



- 過去1年間に、文化ホールや美術館等の施設やイベント等で直接、または、オンラインやWEBやテレビで、文化芸術の作品を「観たり、聴いたりした」が、45.8%と最も高くなっている。
- 「観たり、聴いたりした」ことがある人は、令和3年調査よりも15.5ポイント増加している一方、平成30年調査よりも8.7ポイント減少している。

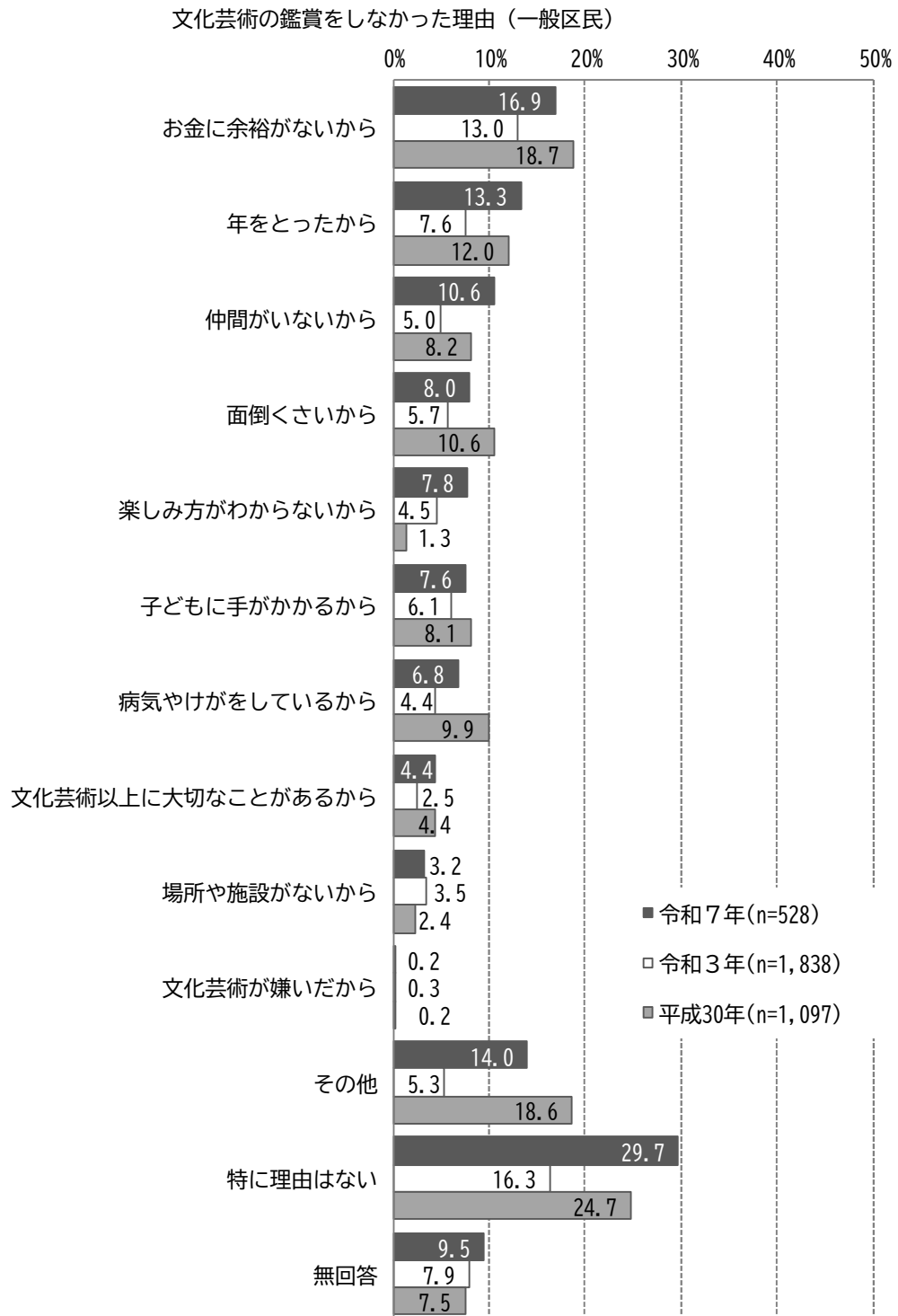


【参考】

- この1年間に、文化芸術イベントを外出を伴う形で鑑賞したことがあるかについて、鑑賞したことがある（「鑑賞したものはなし」と回答した人を除く）割合は43.1%（国）

出典：文化に関する世論調査報告書（令和6年度調査・文化庁）

- 文化芸術の鑑賞をしなかった理由について「特に理由はない」が 29.7%と最も高く、次いで「お金に余裕がないから」が 16.9%、「年をとったから」が 13.3%となっている。
- 鑑賞をしなかった理由の上位の内容について、令和 3 年調査、平成 30 年調査と比べて大きな変化は見られない。「特に理由はない」は令和 3 年調査と比べると、13.4 ポイント増加している。



- 文化芸術の鑑賞をしなかった理由について年代別にみると、30歳未満、40～70歳代は「特に理由はない」、30歳代は「子どもに手がかかるから」、70歳以上は「年をとったから」が最も高くなっている。

文化芸術の鑑賞をしなかった理由（一般区民・年代別）

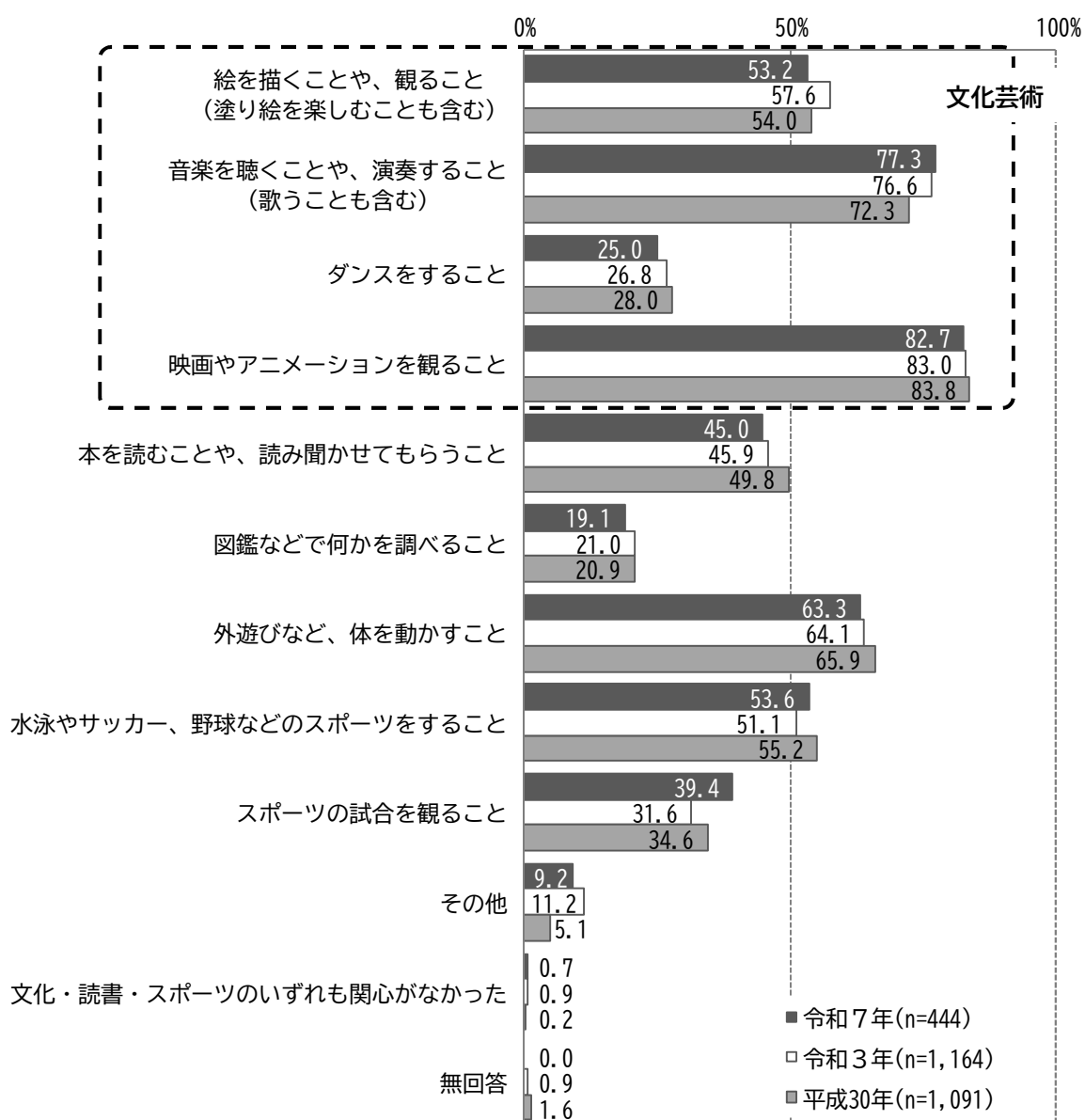
	過去1年間に、文化ホールや美術館等の施設やイベント等で直接、または、オンラインやWEBやテレビで、文化芸術の作品を観たり、聴いたりしなかった理由							
	合計	仲間がいな いから	楽しみ方が わからない から	子どもに手 がかかるか ら	病气やけが をしている から	年をとった から	場所や施設 がないから	お金に余裕 がないから
20歳未満	11	0 0.0	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20歳代	31	4 12.9	3 9.7	2 6.5	1 3.2	0 0.0	0 0.0	7 22.6
30歳代	64	9 14.1	11 17.2	20 31.3	1 1.6	0 0.0	1 1.6	16 25.0
40歳代	80	4 5.0	7 8.8	14 17.5	1 1.3	2 2.5	5 6.3	15 18.8
50歳代	107	15 14.0	5 4.7	2 1.9	5 4.7	3 2.8	4 3.7	15 14.0
60歳代	79	10 12.7	8 10.1	0 0.0	8 10.1	7 8.9	0 0.0	20 25.3
70歳代	89	10 11.2	3 3.4	1 1.1	12 13.5	26 29.2	6 6.7	12 13.5
80歳以上	61	4 6.6	2 3.3	1 1.6	7 11.5	31 50.8	1 1.6	3 4.9

	合計	文化芸術が 嫌いだから	面倒くさい から	文化芸術以 上に大切な ことがある から	その他	特に理由は ない	無回答
20歳未満	11	0 0.0	1 9.1	2 18.2	1 9.1	5 45.5	1 9.1
20歳代	31	0 0.0	3 9.7	1 3.2	4 12.9	12 38.7	0 0.0
30歳代	64	0 0.0	6 9.4	5 7.8	7 10.9	17 26.6	4 6.3
40歳代	80	0 0.0	8 10.0	4 5.0	12 15.0	27 33.8	6 7.5
50歳代	107	1 0.9	8 7.5	4 3.7	20 18.7	37 34.6	13 12.1
60歳代	79	0 0.0	4 5.1	0 0.0	15 19.0	24 30.4	7 8.9
70歳代	89	0 0.0	6 6.7	3 3.4	11 12.4	26 29.2	7 7.9
80歳以上	61	0 0.0	5 8.2	3 4.9	3 4.9	8 13.1	11 18.0

小学5年生・中学1年生向け調査（児童生徒向け）

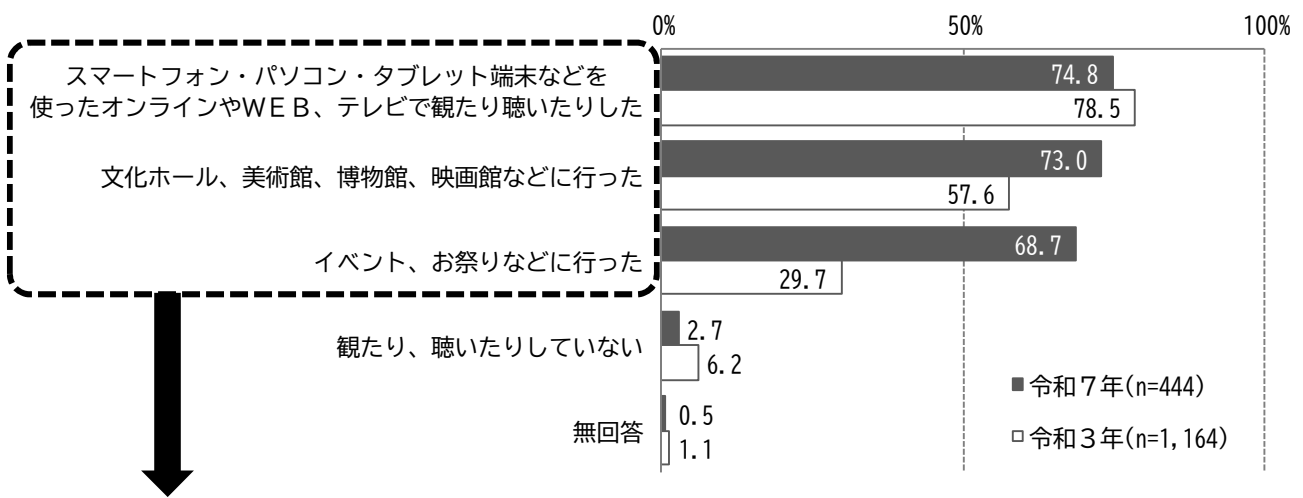
- 関心のある「文化芸術」の内容について「映画やアニメーションを観ること」が82.7%と最も高く、次いで「音楽を聴くことや演奏すること（歌うことも含む）」が77.3%、「絵を描くことや観ること（塗り絵を楽しむことも含む）」が53.2%となっている。
- 関心のある「文化芸術」の内容について、令和3年調査、平成30年調査と比べて大きな変化は見られない。

文化・読書・スポーツに対する関心の有無（児童生徒）



- 文化芸術の鑑賞を行った児童生徒は 96.8%となっている。
- 令和3年調査（92.7%）と比べて、4.1ポイント増加している。
- 文化芸術の鑑賞を行った内容について、「スマートフォン・パソコン・タブレット端末などを使ったオンラインやWEB、テレビで観たり聴いたりした」が74.8%と最も高く、次いで「文化ホール、美術館、博物館、映画館などに行った」が73.0%、「イベントお祭りなどに行った」が68.7%となっている。
- 令和3年調査と比べて、「文化ホール、美術館、博物館、映画館などに行った」は15.4ポイント、「イベントお祭りなどに行った」は39ポイント増加している。

文化芸術の鑑賞の有無（児童生徒）



文化芸術の鑑賞を行った児童生徒は **96.8%**

※全体（100%）から「観たり、聴いたりしていない」と「無回答」を除いた割合

(3) 保護者と子どもの文化芸術に関する関心・行動の関連性

小学5年生・中学1年生向け調査

保護者の文化芸術に対する関心・行動の度合いと子どもの文化芸術鑑賞の有無

- 保護者の文化芸術への関心・行動の度合いが高いほど、子どもが過去1年間に文化芸術を鑑賞した割合が高くなっている。
- 令和3年調査、平成30年調査と同様の傾向になっている。

子どもにおける幼少期の文化芸術活動と現在の文化芸術鑑賞の有無

- 就学前に文化芸術活動に親しんでいた子どもほど、現在も文化芸術活動を鑑賞している傾向にある。
- 令和3年調査、平成30年調査と同様の傾向になっている。

(4) 関心・行動の傾向から見る文化芸術分野の特徴

一般区民向け調査

文化芸術をしなかった理由

- 文化芸術をしなかった理由について、無関心層、関心層ともに、「特に理由はない」が最も高くなっている。
- 無関心層では、「年をとったから」が13.3%、「お金に余裕がないから」が12.5%となっている。
- 関心層では、「お金に余裕がないから」が21.1%、「年をとったから」が12.8%となっている。

文化芸術に関する創作や表現などを体験するイベントや講座への参加

- 文化芸術に関する創作や表現などを体験するイベントや講座への参加について、文化芸術への関心・行動の度合いが高い層で、「参加したことがある」の割合が高くなっている。

文化芸術に関わる活動

- 文化芸術に関わる活動について、文化芸術への関心・行動の度合いが高い層で、「おこなっている」の割合が高くなっている。
- 「おこないたいと思うが、おこなっていない」に関しては、関心層で割合が最も高くなっている。

伝統芸能等の体験

- 伝統芸能の体験について「観たり、聴いたりしたことはない」が、35.9%と最も高く、次いで「地域の祭事など、年中行事に参加したことがある」が24.2%、「郷土博物館の展示を観たことがある」が19.7%となっている。
- 「観たり、聴いたり、体験した」割合は、令和7年の調査では41.1%、令和3年の調査では37.7%となっており、前回の調査よりも3.4ポイント増加し、平成30年の調査と同水準となっている。

地域への愛着や誇り

- 足立区への愛着について、文化芸術への関心・行動の度合いが高い層で、「あてはまる」（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計）の割合が高くなっている。
- 足立区への誇りについて、文化芸術への関心・行動の度合い別でみると、関心層で「あてはまる」（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計）の割合が最も高くなっている。

文化	ア 足立区に愛着を持っている						あてはまる
	合計	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
無関心層	247	95 38.5	83 33.6	53 21.5	4 1.6	12 4.9	178 72.1
関心層	263	100 38.0	111 42.2	38 14.4	9 3.4	5 1.9	211 80.2
行動層	440	134 30.5	198 45.0	73 16.6	22 5.0	13 3.0	332 75.5
その他	67	24 35.8	28 41.8	10 14.9	1 1.5	4 6.0	52 77.6

文化	イ 足立区に誇りを持っている						あてはまる
	合計	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
無関心層	242	65 26.9	59 24.4	91 37.6	13 5.4	14 5.8	124 51.3
関心層	262	54 20.6	98 37.4	84 32.1	12 4.6	14 5.3	152 58.0
行動層	438	67 15.3	143 32.6	154 35.2	41 9.4	33 7.5	210 47.9
その他	67	18 26.9	16 23.9	24 35.8	4 6.0	5 7.5	34 50.8

4 読書分野における集計・分析結果

(1) 読書分野のまとめ

関心・行動の具体的な実態

- 一般区民における読書への関心は 51.6%で年々減少傾向にある。過去 1 か月の読書活動率は 86.0%であるが、その内容は「気になったネット記事を読む (51.2%)」が半数以上と最も高く、「本 (49.2%)」や「新聞 (39.4%)」を読む割合は年々低下しており、活字離れとネット利用へシフトしていることがわかる。
- 図書館の利用目的は、「利用していない」が 40.2%で最も高くなっている。一方、電子書籍については『読む』（ほぼ毎日～月に 1 度）の合計が 35.4%と、前回調査から微増しており、媒体の多様化が進んでいる。
- 児童生徒の読書活動率は 89.7%であるが、「本を読むこと」への関心自体は年々減少している。
- 保護者が読書の「行動層」である場合、子どもが本を読んだ割合は 94.3%となっている。また、就学前に本を読んでいた子どもの方が、現在の読書活動を行っている割合が高くなっている。

行動と人生 100 年時代を心豊かに生きる要素との関係

- 読書の行動層は、「知らない物事を学ぼうと思う」など「人生 100 年時代を心豊かに生きるための 6 つの要素」の 4 項目で他の層を上回っている。
- 児童生徒において、読書行動層は自己評価・自己肯定感が高い傾向にあるものの、全体としてその合計点が年々低くなっている。

阻害要因と今後の課題・アプローチ

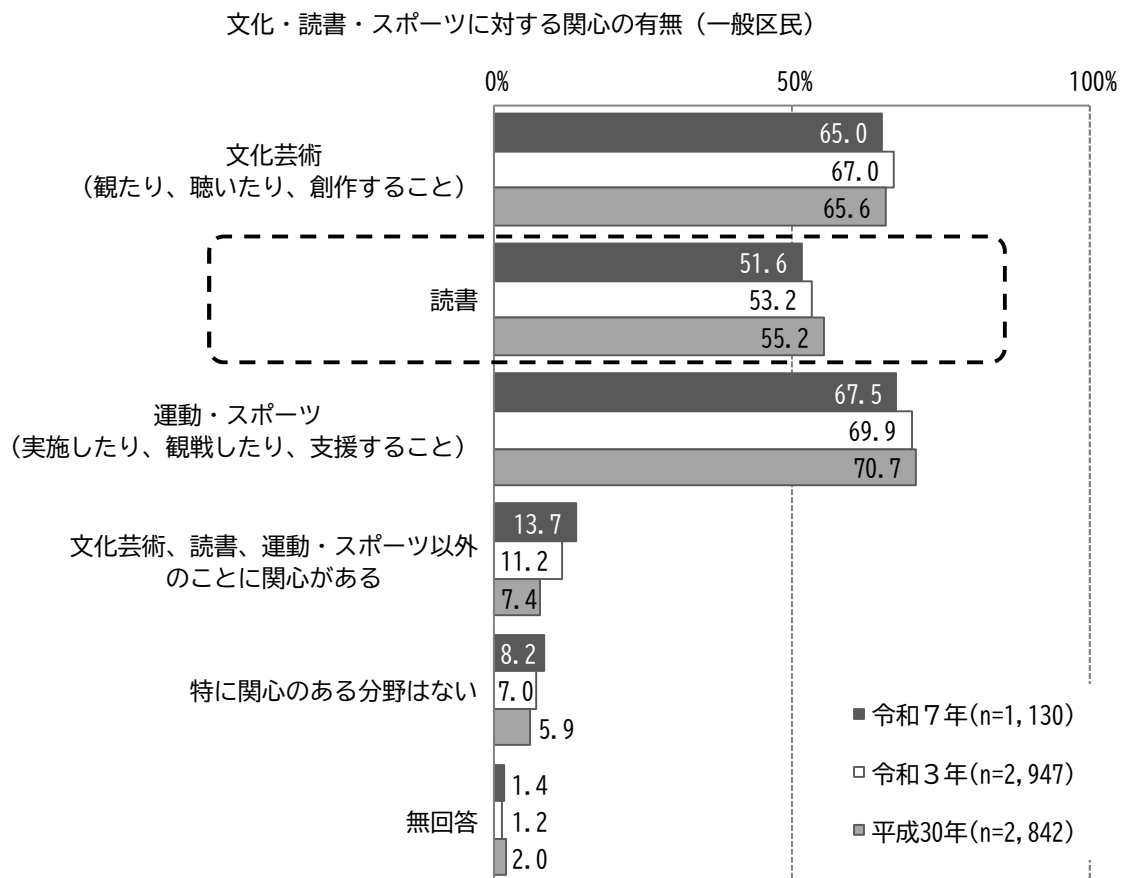
- 読書ができなかった理由は、「仕事・学校・家事・育児・介護など読書よりも時間をかけなければならないことがあるから (25.0%)」が最も高くなっている。また、「年齢を重ねて本を読むことが難しくなったから (21.1%)」も大きな要因である。
忙しい層への電子書籍やネット記事を活用した「スキマ時間の読書」の啓発や、高齢者向けの大活字本・オーディオブックの普及など、時間や身体的制約を補うアプローチが必要となる。
- 分野間連携によるアプローチについて、読書分野の行動層のうち、25.5%が文化分野の関心層でもある。文化芸術と読書に関する取組を組み合わせ、連動させた内容を取り入れていくことで、読書を通じた文化芸術への誘導も検討の余地がある。

(2) 読書の実態

一般区民向け調査 / 小学5年生・中学1年生向け調査

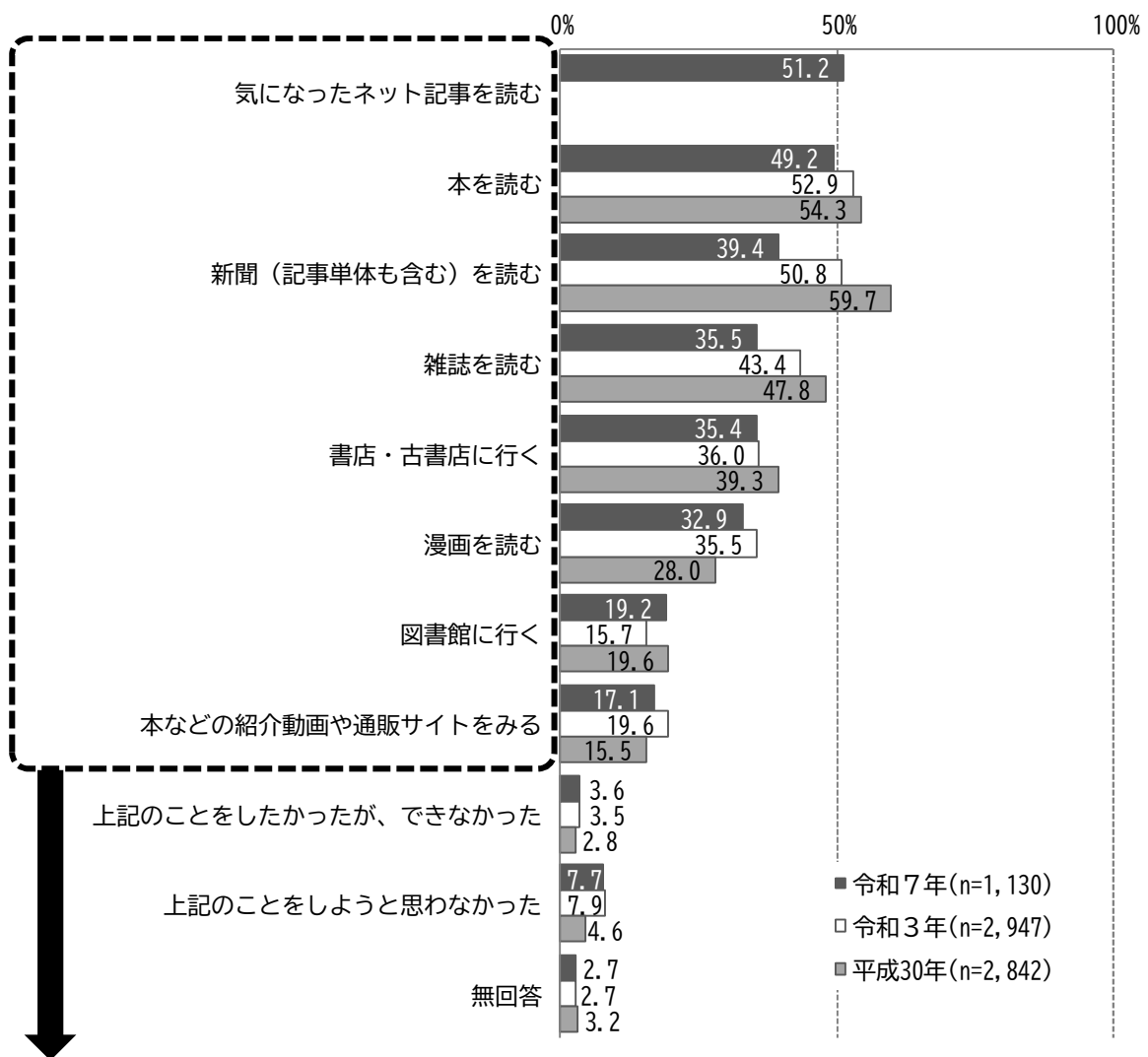
一般区民向け調査

- 「読書」に関心のある人は51.6%となっている。
- 「読書」に関心のある人は年々減少しており、令和3年調査よりも1.6ポイント、平成30年調査よりも3.6ポイント減少している。



- 最近1か月間で読書に関する活動を行った人は86.0%となっている。
- 令和3年調査（85.9%）と比べて、大きな変化は見られない。平成30年調査（89.4%）と比べて、3.4ポイント減少している。
- 読書活動の内容について、「気になったネット記事を読む」が51.2%と最も高く、次いで「本を読む」が49.2%、「新聞（記事単体を含む）を読む」が39.4%となっている。
- 令和3年調査、平成30年調査と比べて、「本を読む」、「新聞（記事単体を含む）を読む」、「雑誌を読む」「書店・古書店に行く」は年々減少している。

読書活動の有無（一般区民）



最近1か月間で読書に関する活動を行った人は**86.0%**

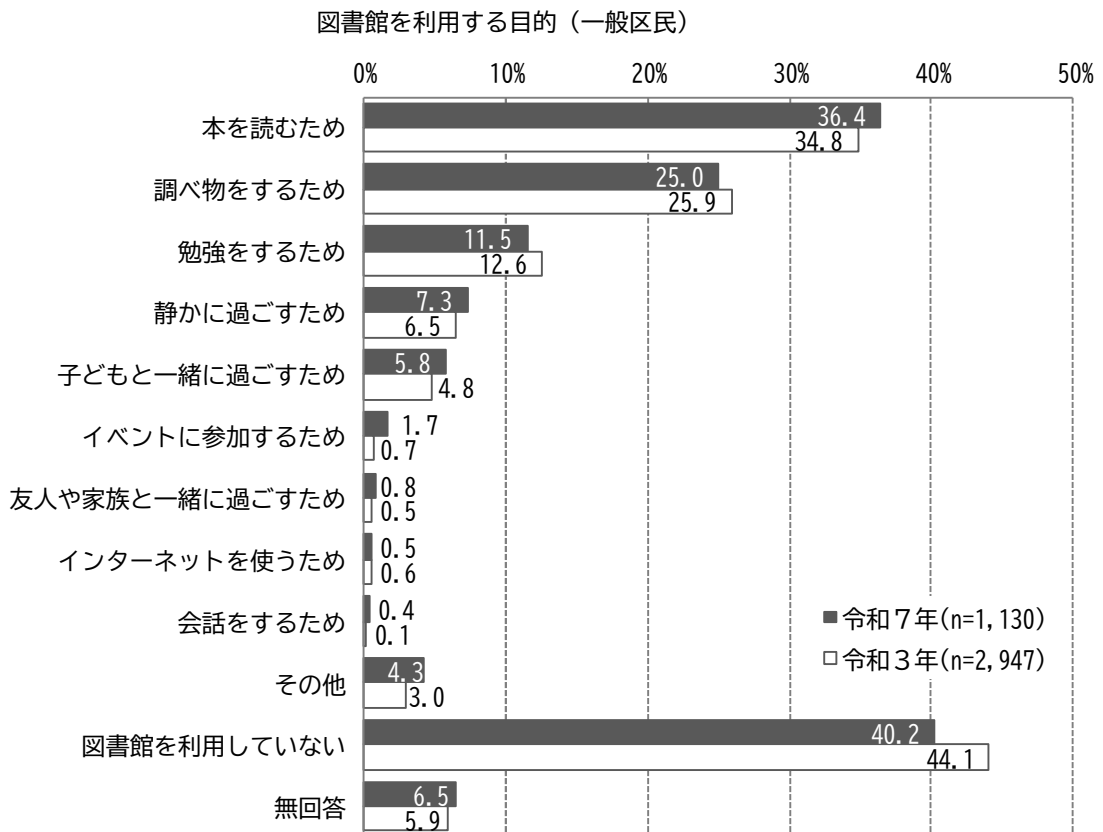
※全体（100%）から「したかったが、できなかった」「しようと思わなかった」「無回答」を除いた割合

【参考】

- 1か月に1冊以上本を読む割合は36.9%（国）

出典：令和5年度 国語に関する世論調査（文化庁）

- 図書館を利用する目的について、「図書館を利用していない」が40.2%と最も高く、次いで「本を読むため」が36.4%、「調べ物をするため」が25.0%となっている。
- 令和3年調査と比べて、「図書館を利用していない」は3.9ポイント、「調べ物をするため」は0.9ポイント減少、「本を読むため」は1.6ポイント増加している。



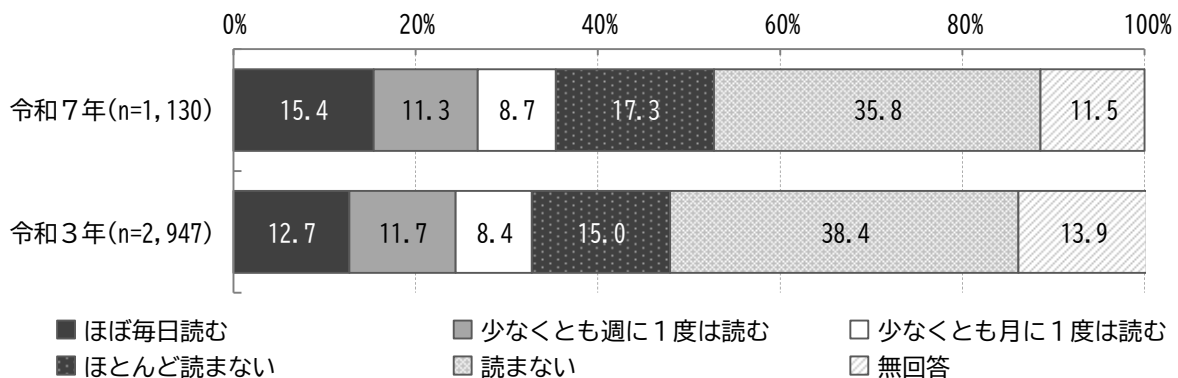
- 図書館を利用する目的について年代別にみると、20歳未満は「勉強をするため」、20歳代、50歳以上は「図書館を利用していない」、30～40歳代は「本を読むため」が最も高くなっている。

図書館を利用する目的（一般区民・年代別）

	図書館を利用する目的												無回答
	合計	本を読むため	調べ物をするため	勉強をするため	イベントに参加するため	静かに過ごすため	会話をするため	子どもと一緒に過ごすため	友人や家族と一緒に過ごすため	インターネットを使うため	その他	図書館を利用していない	
20歳未満	21	8 38.1	6 28.6	10 47.6	0 0.0	3 14.3	0 0.0	0 0.0	2 9.5	0 0.0	0 0.0	4 19.0	1 4.8
20歳代	83	28 33.7	21 25.3	23 27.7	1 1.2	9 10.8	0 0.0	3 3.6	0 0.0	1 1.2	6 7.2	33 39.8	2 2.4
30歳代	124	49 39.5	37 29.8	23 18.5	6 4.8	9 7.3	0 0.0	26 21.0	1 0.8	1 0.8	4 3.2	39 31.5	0 0.0
40歳代	161	73 45.3	38 23.6	25 15.5	3 1.9	8 5.0	1 0.6	27 16.8	2 1.2	1 0.6	7 4.3	58 36.0	5 3.1
50歳代	225	86 38.2	57 25.3	22 9.8	4 1.8	20 8.9	0 0.0	6 2.7	2 0.9	2 0.9	8 3.6	104 46.2	5 2.2
60歳代	199	82 41.2	58 29.1	18 9.0	2 1.0	17 8.5	2 1.0	1 0.5	0 0.0	0 0.0	13 6.5	84 42.2	6 3.0
70歳代	192	57 29.7	46 24.0	5 2.6	1 0.5	9 4.7	1 0.5	1 0.5	2 1.0	1 0.5	9 4.7	79 41.1	27 14.1
80歳以上	117	27 23.1	17 14.5	4 3.4	2 1.7	5 4.3	1 0.9	1 0.9	0 0.0	0 0.0	2 1.7	49 41.9	26 22.2

- 電子書籍の利用頻度について、「読まない」が35.8%と最も高くなっている。
- 『読む』（「ほぼ毎日読む」「少なくとも週に1度は読む」「少なくとも月に1度は読む」の合計）は、35.4%となっている。
- 『読む』（「ほぼ毎日読む」「少なくとも週に1度は読む」「少なくとも月に1度は読む」の合計）について、令和3年調査（32.8%）と比べると、2.6ポイント増加している。

電子書籍の利用頻度（一般区民）



【参考】

- 電子書籍を利用する割合は40.3%（国）

出典：令和5年度 国語に関する世論調査（文化庁）

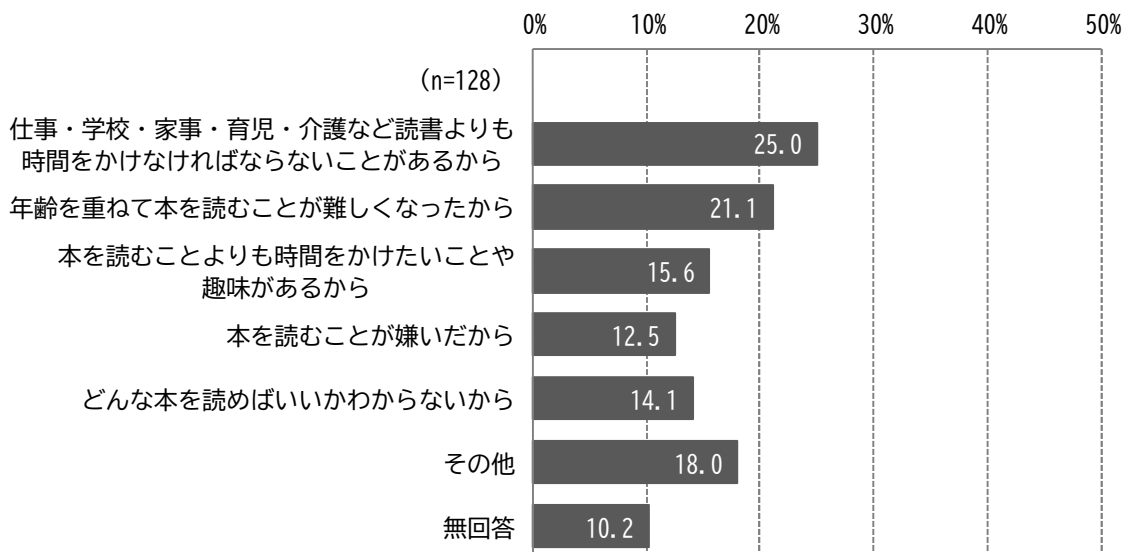
- 電子書籍の利用頻度について年代別にみると、20歳未満は「少なくとも週に1度は読む」「ほとんど読まない」、20歳代、50歳以上は「読まない」、30～40歳代は「ほぼ毎日読む」が最も高くなっている。

電子書籍の利用頻度（一般区民・年代別）

	電子書籍の利用頻度						
	合計	ほぼ毎日読む	少なくとも週に1度は読む	少なくとも月に1度は読む	ほとんど読まない	読まない	無回答
20歳未満	21	4 19.0	5 23.8	4 19.0	5 23.8	1 4.8	2 9.5
20歳代	83	9 10.8	18 21.7	11 13.3	16 19.3	22 26.5	7 8.4
30歳代	124	29 23.4	27 21.8	14 11.3	18 14.5	28 22.6	8 6.5
40歳代	161	41 25.5	20 12.4	17 10.6	33 20.5	39 24.2	11 6.8
50歳代	225	32 14.2	25 11.1	22 9.8	52 23.1	76 33.8	18 8.0
60歳代	199	31 15.6	21 10.6	11 5.5	35 17.6	83 41.7	18 9.0
70歳代	192	19 9.9	9 4.7	14 7.3	23 12.0	95 49.5	32 16.7
80歳以上	117	8 6.8	1 0.9	5 4.3	11 9.4	60 51.3	32 27.4

- 読書活動ができなかった理由について、「仕事・学校・家事・育児・介護など読書よりも時間をかけなければならないことがあるから」が25.0%と最も高く、次いで「年齢を重ねて本を読むことが難しくなったから」が21.1%、「その他」が18.0%となっている。

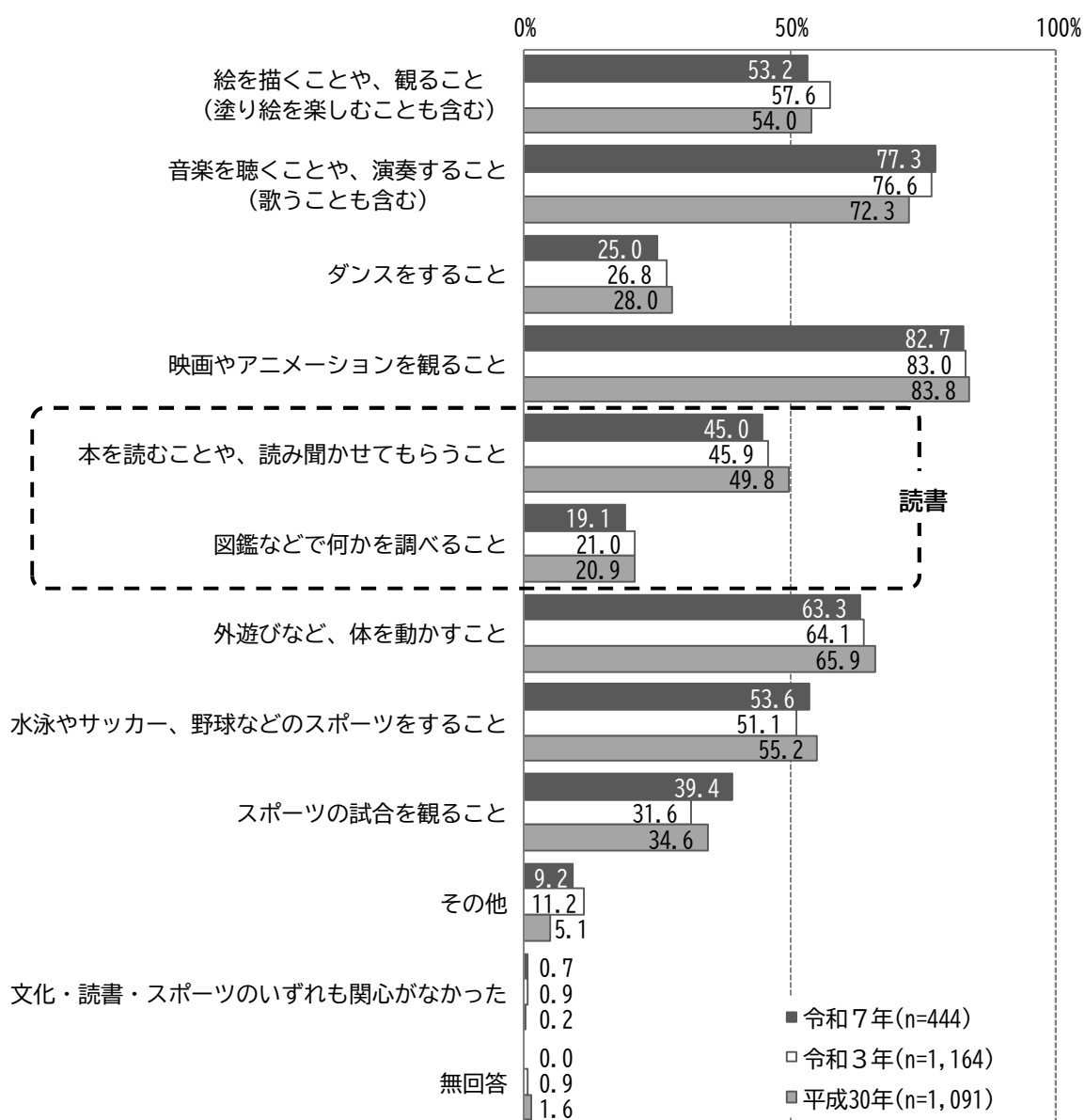
読書活動ができなかった・しなかった理由（一般区民）



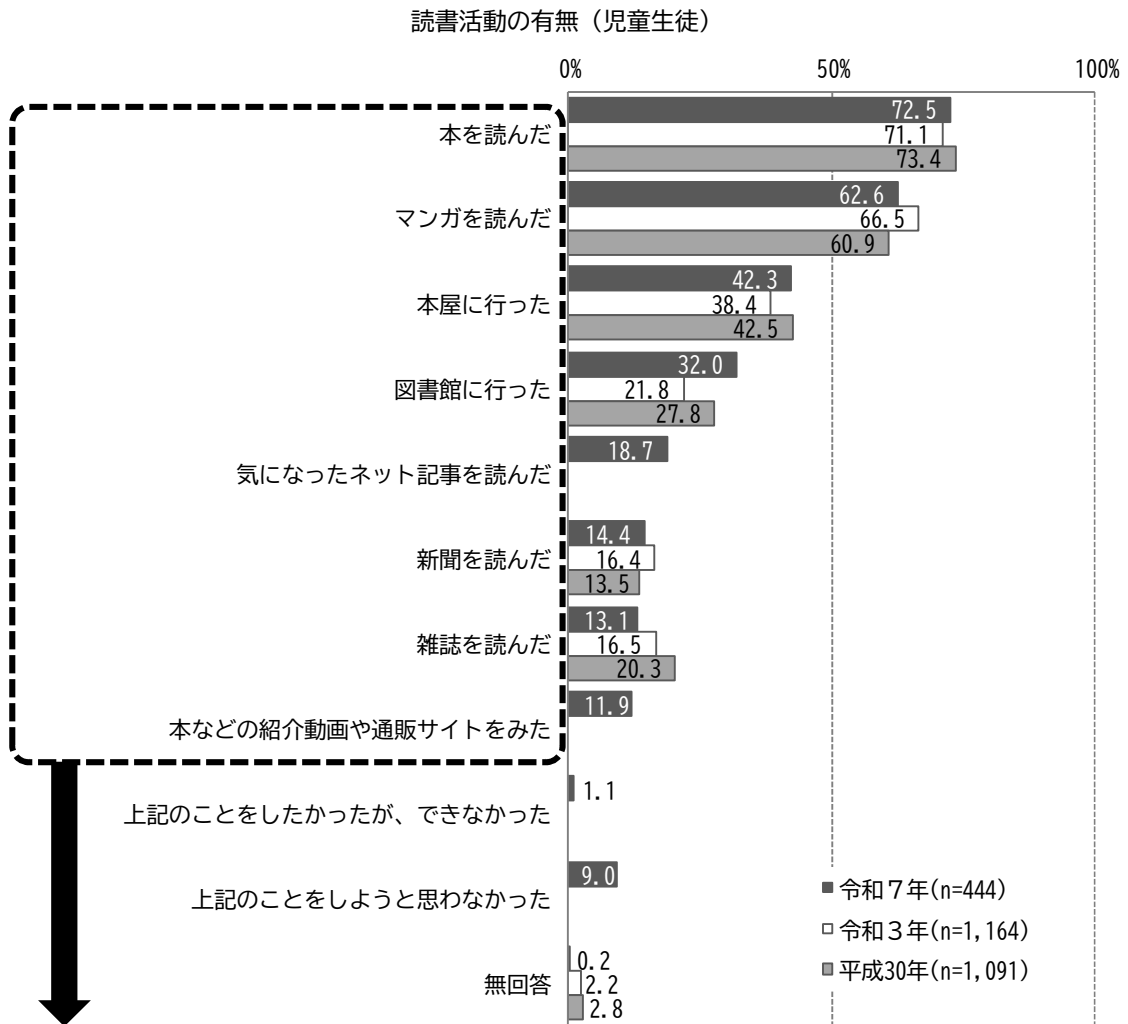
小学5年生・中学1年生向け調査（児童生徒向け）

- 関心のある「読書」の内容について、「本を読むことや、読み聞かせてもらうこと」が45.0%、「図鑑などで何かを調べること」が19.1%となっている。
- 関心のある「読書」の内容について、令和3年調査、平成30年調査と比べると「本を読むことや、読み聞かせてもらうこと」は年々減少している。

文化・読書・スポーツに対する関心の有無（児童生徒）



- 最近1か月間で読書に関する活動を行った児童生徒は89.7%となっている。
- 令和3年調査(90.2%)、平成30年調査(89.2%)と比べて、大きな変化はみられない。
- 読書活動の内容について、「本を読んだ」が72.5%と最も高く、次いで「マンガを読んだ」が62.6%、「本屋に行った」が42.3%となっている。
- 令和3年調査と比べて、「本を読んだ」は1.4ポイント増加、「マンガを読んだ」は3.9ポイント減少、「本屋に行った」は3.9ポイント増加している。平成30年調査と比べて、「本を読んだ」「マンガを読んだ」「本屋に行った」は同水準となっている。



最近1か月間で読書に関する活動を行った人は89.7%
 ※全体(100%)から「したかったが、できなかった」「しようと思わなかった」「無回答」を除いた割合

※令和3年、平成30年調査では、「したかったが、できなかった」「しようと思わなかった」の類似の選択肢として「どれもしなかった」が7.6%(令和3年)、8.0%(平成30年)であった。

【参考】
 ■ 1か月に本を読んだ小学5年生は91.0%、中学2年生は90.2%(東京都)
 出典：令和6年度 読書状況調査集計結果(東京都教育委員会)

(3) 保護者と子どもの読書に関する関心・行動の関連性

小学5年生・中学1年生向け調査

保護者の読書活動に対する関心・行動の度合いと子どもの読書活動の有無

- 保護者が読書を行っているほど、子どもが過去1か月間に本を読んでいる傾向にある。
- 令和3年調査、平成30年調査と同様の傾向になっている。

子どもにおける幼少期の読書活動と現在の読書活動の有無

- 就学前に本をよんでいた子どもほど、現在も本を読んでいる傾向にある。
- 令和3年調査、平成30年調査と同様の傾向になっている。

(4) 関心・行動の傾向から見る読書分野の特徴

一般区民向け調査・小学5年生・中学1年生向け調査

読書活動ができなかった・しなかった理由

- 読書活動ができなかった・しなかった理由について、無関心層では「仕事・学校・家事・育児・介護など、読書よりも時間をかけなければならないことがあるから」「年齢を重ねて本を読むことが難しくなったから」が21.7%と最も高くなっている。
- 関心層では、「仕事・学校・家事・育児・介護など、読書よりも時間をかけなければならないことがあるから」が58.3%と最も高くなっている。

過去1年間でおこなった読書に関わる行動

- 過去1年間で行った読書に関わる活動について、読書への関心・行動の度合いにおいて、無関心層、関心層では「(いずれの行動も)していない」が最も高くなっている。
- 行動層では「家族や友人に本の感想や調べたことを話す」が最も高くなっている。

図書館を利用する目的

- 図書館を利用する目的について、読書への関心・行動の度合いにおいて、無関心層、関心層では、「図書館を利用していない」が最も高くなっている。
- 行動層では、「本を読むため」が最も高くなっている。

学校図書館の利用頻度（小中学生）

- 学校図書館の利用頻度について、「行かない」が39.4%と最も高くなっている。
- 「行かない」は令和3年調査と比べて9.6ポイント減少し、平成30年調査と同水準になっている。
- 『利用している』（「週に1回以上」「月に2回以上」「月に1回程度」の合計）は、59.7%となっている。
- 『利用している』（「週に1回以上」「月に2回以上」「月に1回程度」の合計）について、令和3年調査（48.0%）と比べて、1.7ポイント増加している。平成30年調査（57.1%）と比べて、2.6ポイント増加している。

地域への愛着や誇り

- 足立区への愛着について、読書への関心・行動の度合い別でみると、関心層で「あてはまる」（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計）の割合が最も高くなっている。
- 足立区への誇りについて、読書への関心・行動の度合い別でみると、無関心層で「あてはまる」（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計）の割合が最も高くなっている。

読書	ア 足立区に愛着を持っている						あてはまる
	合計	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	
無関心層	107	47 43.9	36 33.6	15 14.0	1 0.9	8 7.5	83 77.5
関心層	12	3 25.0	7 58.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3	10 83.3
行動層	52	177 32.1	235 42.6	104 18.8	20 3.6	16 2.9	412 74.7
その他	393	143 36.4	163 41.5	64 16.3	14 3.6	9 2.3	306 77.9

読書	イ 足立区に誇りを持っている						あてはまる
	合計	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	
無関心層	107	33 30.8	27 25.2	37 34.6	2 1.9	8 7.5	60 56.0
関心層	11	1 9.1	3 27.3	5 45.5	0 0.0	2 18.2	4 36.4
行動層	552	99 17.9	171 31.0	202 36.6	44 8.0	36 6.5	270 48.9
その他	387	86 22.2	127 32.8	125 32.3	26 6.7	23 5.9	213 55.0

※関心層については、n=12であることを注意する

5 運動・スポーツ分野における集計・分析結果

(1) 運動・スポーツ分野のまとめ

関心・行動の具体的な実態

- 一般区民におけるスポーツへの関心は 67.5%であるが、過去 1 年間の実施率は 53.0%となっている。実施している人のうち「週 1 日以上実施」している人が 75.0%を占め、一度始めると習慣化しやすい特性がみられる。実施していない人も含めた全体でみると、「週に 1 日以上スポーツを実施している」割合は 39.7%となっている。
- 児童生徒の「外遊びなど、体を動かすこと」への関心は減少傾向だが、「スポーツの試合を観ること」への関心 (39.4%) は過去の調査と比べて増加している。また、週 1 回以上の実施率は 80.4%と増加傾向にある。
- 保護者がスポーツの「行動層」である場合、子どもがスポーツに関する行動をした割合は 88.1%となっている。就学前にスポーツに関する行動をしていた子どもの方が、現在のスポーツに関する行動をしている割合が高くなっている。

行動と人生 100 年時代を心豊かに生きる要素との関係

- スポーツの行動層は、「人生 100 年時代を心豊かに生きるための 6 つの要素」の 6 項目すべてで無関心層・関心層を上回っており、特に「新しいことにチャレンジしようと思う」などの意欲面で顕著な効果がみられる。
- 子どもにおいて、保護者がスポーツの行動層であるほど、子どもの「逆境を乗り越える力 (対処能力)」が高く評価される傾向がある。

阻害要因と今後の課題・アプローチ

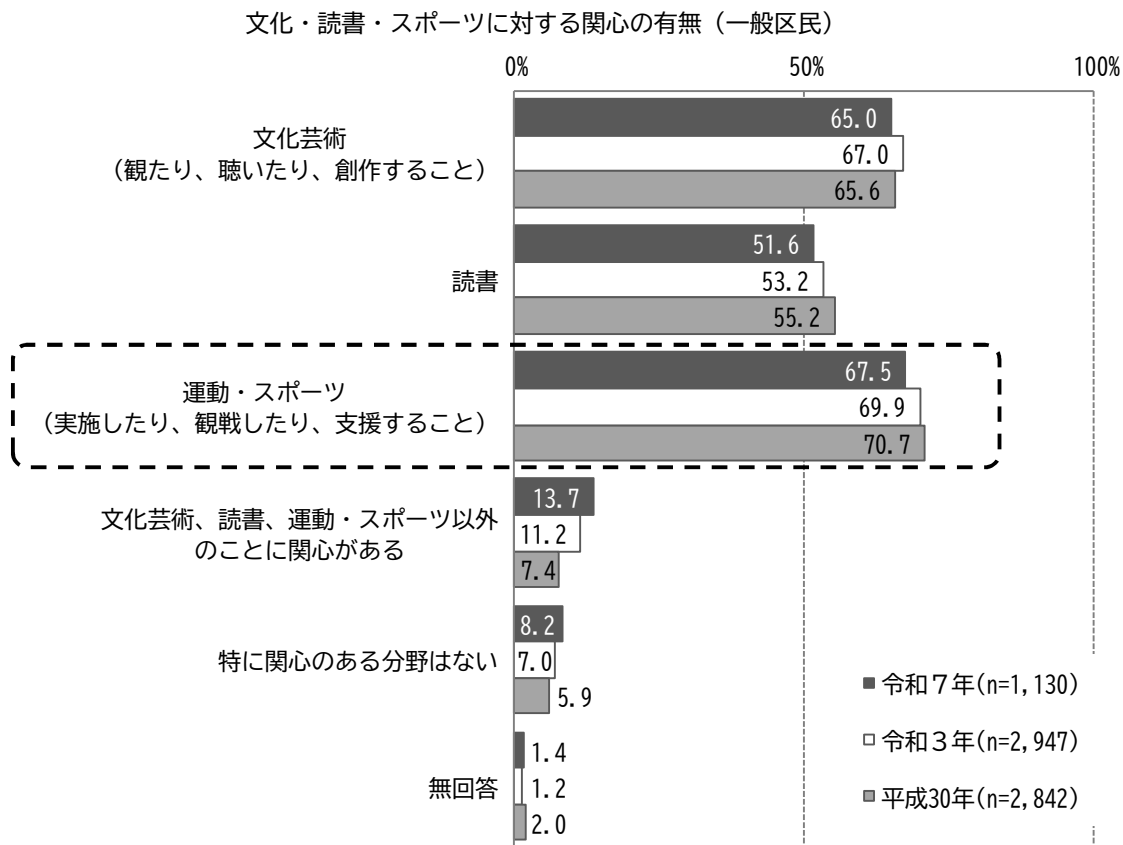
- 運動・スポーツを実施しない理由は、「仕事・学業・家事・育児・介護などで時間が取れなかった (37.2%)」が突出しており、年代別にみても 20~60 歳代の共通の課題となっている。70 歳以上になると「病気やけが、体調不良」が主な理由となっている。
- 参加してみたいプログラムとして、関心層では「運動経験が少ない方 (初心者) を対象としたストレッチやヨガなどの教室」が 29.5%と高い。また、取り組みやすくする支援としては、関心層・無関心層ともに「気軽に使える公園・広場の整備」や「費用の補助」が高く、必要な支援や環境であるといえる。本格的なスポーツだけでなく、身近な公園での軽運動や、初心者でも気後れせずに参加できる教室の充実、費用面のサポートが、関心層を「行動層」へと押し上げる鍵となる。

(2) 運動・スポーツの実態

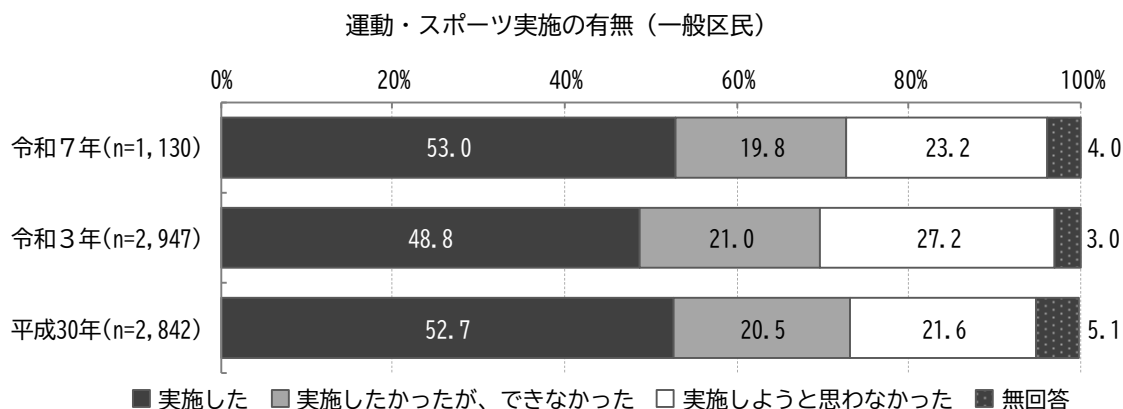
一般区民向け調査 / 小学5年生・中学1年生向け調査

一般区民向け調査

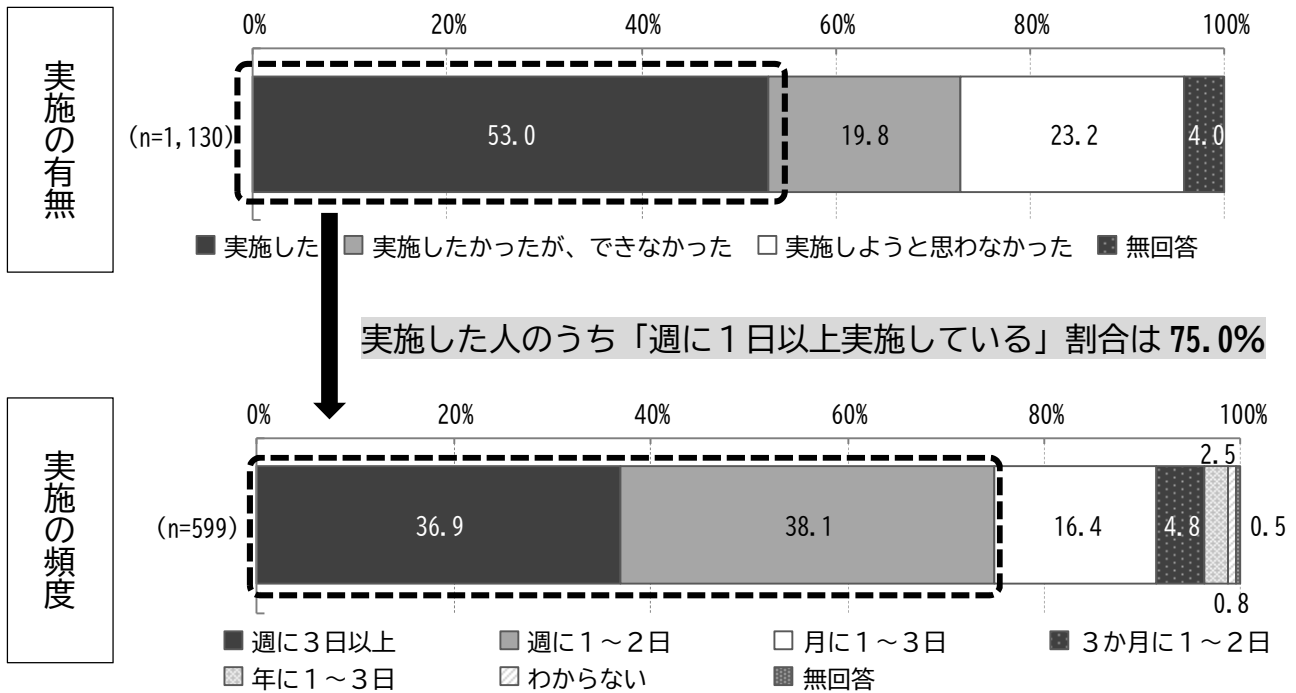
- 「運動・スポーツ」に関心のある人は67.5%となっている。
- 「運動・スポーツ」に関心のある人は年々減少しており、令和3年調査よりも2.4ポイント、平成30年調査よりも3.2ポイント減少している。



- 過去1年間に運動・スポーツを「実施した」が53.0%と最も高くなっている。
- 「実施した」人は、令和3年調査よりも4.2ポイント増加しており、平成30年調査と同水準になっている。



- 運動・スポーツを「実施した」人のうち、「週に1日以上実施している」割合は75.0%となっている。
- 実施していない人も含めた全体 (n=1,130) でみると、「週に1日以上スポーツを実施している」割合は39.7%となり、令和3年調査と比べて4.5ポイント増加しており、平成30年調査と比べても上回っている。



実施していない人も含めた全体 (n=1,130) でみると、

「週に1日以上スポーツを実施している」割合は39.7%

(週に1日以上実施している：449人)

【参考】

- 20歳以上の週1日以上の運動・スポーツ実施率は52.5% (国)

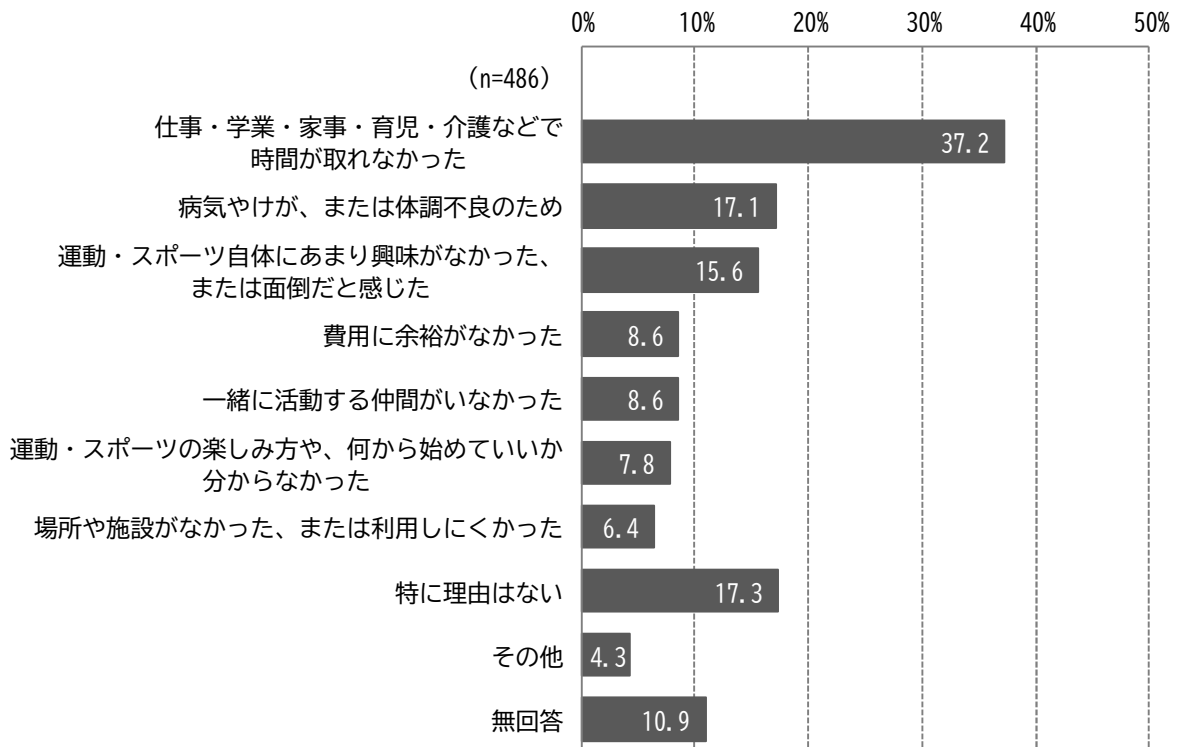
出典：令和6年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査

- 過去1年間に週1回以上スポーツや運動をした人(18歳以上)の割合 (都)

出典：都民のスポーツ活動等に関する調査結果(速報)について

- 運動・スポーツを実施しなかった理由について「仕事・学業・家事・育児・介護などで時間が取れなかった」が37.2%と最も高く、次いで「特に理由はない」が17.3%、「病気やけが、または体調不良のため」17.1%となっている。

運動・スポーツを実施しなかった理由（一般区民）



- 運動・スポーツを実施しなかった理由について年代別にみると、20～60 歳代は「仕事・学業・家事・育児・介護などで時間が取れなかった」、70 歳以上は「病気やけが、または体調不良のため」が最も高くなっている。

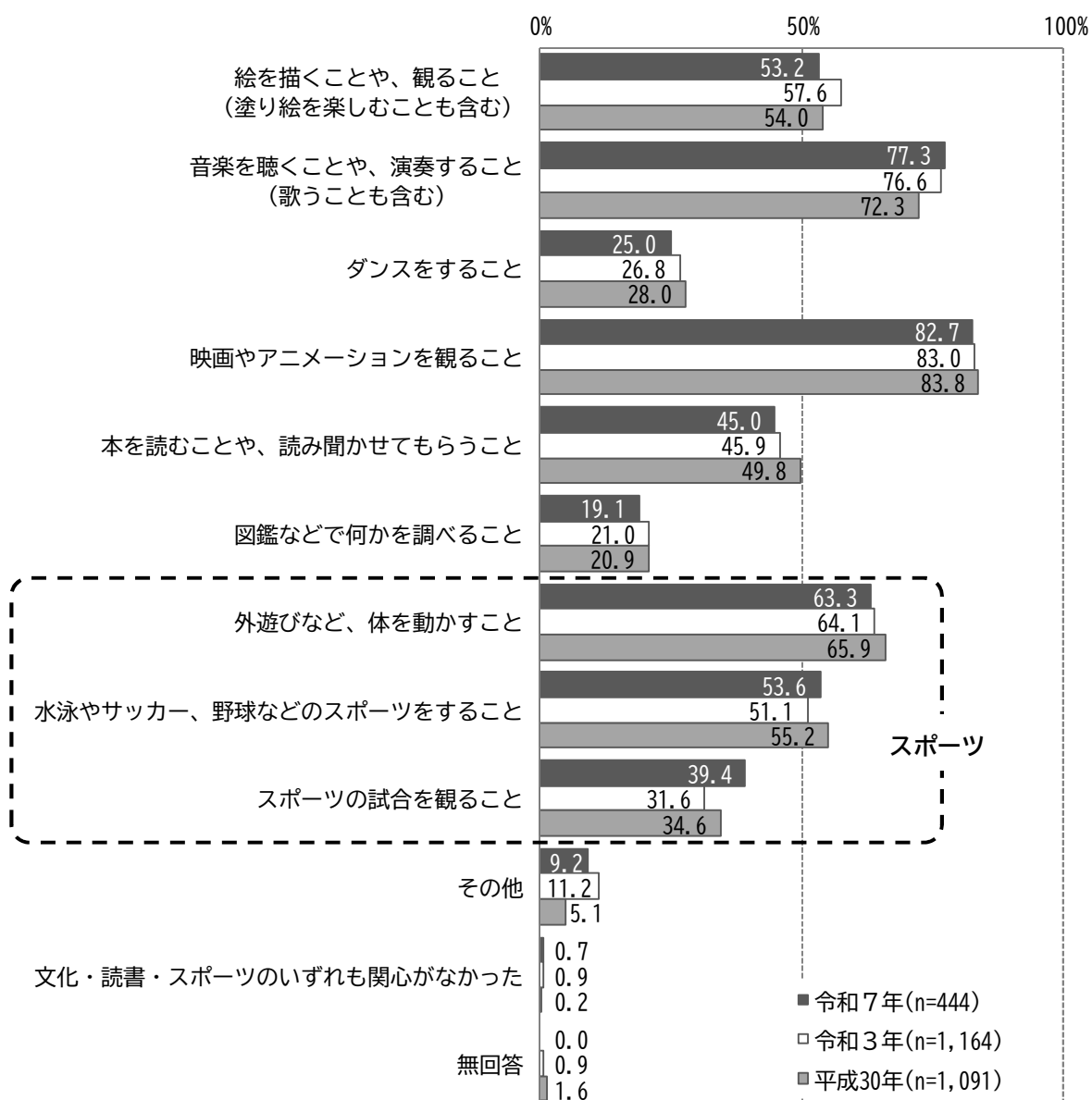
運動・スポーツを実施しなかった理由（一般区民・年代別）

	過去1年間に、運動・スポーツを実施しなかった理由										
	合計	仕事・学業・家事・育児・介護などで時間が取れなかった	費用に余裕がなかった	場所や施設がなかった、または利用しにくかった	病気やけが、または体調不良のため	一緒に活動する仲間がいなかった	運動・スポーツの楽しみ方や、何から始めていいかわからなかった	運動・スポーツ自体にあまり興味がなかった、または面倒だと感じた	特に理由はない	その他	無回答
20歳未満	5	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0
20歳代	33	15 45.5	5 15.2	2 6.1	1 3.0	4 12.1	3 9.1	10 30.3	3 9.1	1 3.0	2 6.1
30歳代	51	29 56.9	2 3.9	5 9.8	4 7.8	5 9.8	4 7.8	11 21.6	6 11.8	2 3.9	1 2.0
40歳代	70	39 55.7	8 11.4	7 10.0	5 7.1	8 11.4	8 11.4	13 18.6	10 14.3	1 1.4	5 7.1
50歳代	99	48 48.5	14 14.1	2 2.0	17 17.2	7 7.1	4 4.0	15 15.2	19 19.2	4 4.0	5 5.1
60歳代	91	33 36.3	7 7.7	5 5.5	23 25.3	7 7.7	7 7.7	13 14.3	22 24.2	3 3.3	5 5.5
70歳代	79	12 15.2	4 5.1	6 7.6	17 21.5	6 7.6	7 8.9	8 10.1	16 20.3	4 5.1	17 21.5
80歳以上	56	2 3.6	2 3.6	4 7.1	15 26.8	4 7.1	3 5.4	4 7.1	8 14.3	6 10.7	16 28.6

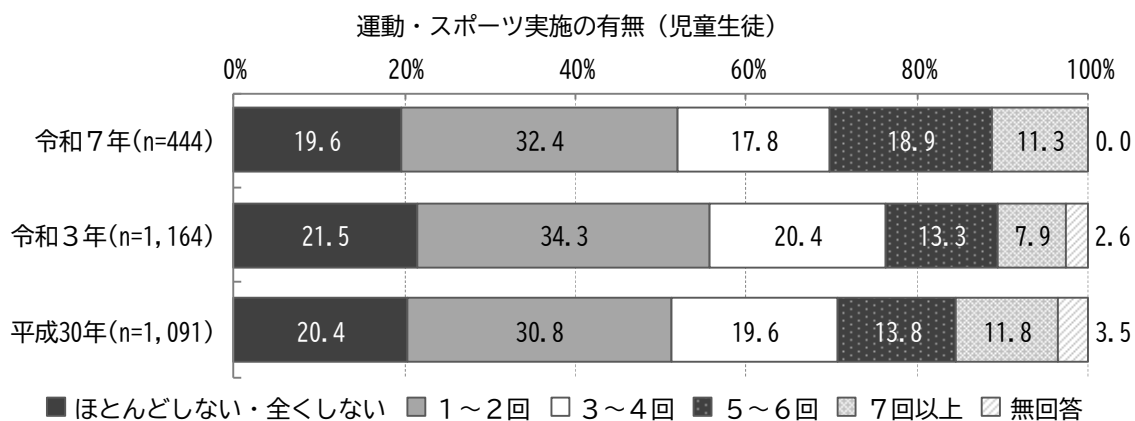
小学5年生・中学1年生向け調査（児童生徒向け）

- 関心のある「スポーツ」の内容について「外遊びなど、体を動かすこと」が63.3%と最も高く、次いで「水泳やサッカー、野球などのスポーツをすること」が53.6%、「スポーツの試合を観ること」が39.4%となっている。
- 関心のある「スポーツ」の内容について、令和3年調査、平成30年調査と比べて「外遊びなど、体を動かすこと」は年々減少している。「スポーツの試合を観ること」は、令和3年調査、平成30年調査と比べて、最も割合が高くなっている。

文化・読書・スポーツに対する関心の有無（児童生徒）



- 1週間あたりの運動・スポーツの実施について「1～2回」が32.4%と最も高くなっている。
- 「している」（「1～2回」「3～4回」「5～6回」「7回以上」の合計）は80.4%となっている。
- 「している」（「1～2回」「3～4回」「5～6回」「7回以上」の合計）について、令和3年調査（75.9%）と比べて4.5ポイント増加、平成30年調査（76.0%）と比べて4.4ポイント増加している。



(3) 保護者と子どもの運動・スポーツに関する関心・行動の関連性

小学5年生・中学1年生向け調査

保護者の運動・スポーツに対する関心・行動の度合いと子どもの運動・スポーツ実施の有無

- 保護者の運動・スポーツへの関心・行動の度合いが高いほど、子どもが学校以外で30分以上からだを動かす割合が高くなっている。
- 令和3年調査、平成30年調査と同様の傾向になっている。

子どもにおける幼少期の運動・スポーツの実施と現在の運動・スポーツ実施の有無

- 就学前に運動・スポーツをしていた子どもほど、現在も実施している傾向にある。
- 令和3年調査、平成30年調査と同様の傾向になっている。

(4) 関心・行動の傾向から見る運動・スポーツ分野の特徴

一般区民向け調査

運動・スポーツを実施しなかった理由

- 運動・スポーツをしなかった理由について、無関心層、関心層ともに、「仕事・学業・家事・育児・介護などで時間が取れなかった」が最も高くなっている。
- 他の理由についてみると、無関心層では「運動・スポーツ自体にあまり興味がなかった、または面倒だと感じた」が高く、関心層では「病気やけが、または体調不良のため」が高くなっている。

今後あれば参加してみたい運動・スポーツのプログラムや教室

- 今後あれば参加してみたい運動・スポーツのプログラムや教室について、無関心層では「特にない」が最も高くなっている。
- 関心層では「運動経験が少ない方（初心者）を対象としたストレッチやヨガなどの教室」が最も高くなっている。

運動・スポーツをする際にあればより取り組みやすい支援や環境

- 運動・スポーツをする際にあればより取り組みやすい支援や環境について、無関心層、関心層ともに、「気軽に使える公園・広場の整備」が最も高くなっている。
- 無関心層、関心層ともに、求めている支援や環境に関して、同様の傾向となっている。

運動・スポーツの実施場所

- スポーツの実施場所について年代別にみると、20歳以上は「自宅周辺」が最も高くなっている。

地域への愛着や誇り

- 足立区への愛着について、運動・スポーツへの関心・行動の度合い別でみると、「あてはまる」（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計）の割合は同水準となっている。
- 足立区への誇りについて、運動・スポーツへの関心・行動の度合いが高い層で、「あてはまる」（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計）の割合が高くなっている。

スポーツ	ア 足立区に愛着を持っている						あてはまる
	合計	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	
無関心層	247	91 36.8	99 40.1	43 17.4	4 1.6	10 4.0	190 76.9
関心層	223	72 32.3	98 43.9	36 16.1	9 4.0	8 3.6	170 76.2
行動層	505	180 35.6	207 41.0	86 17.0	19 3.8	13 2.6	387 76.6
その他	80	25 31.3	32 40.0	16 20.0	3 3.8	4 5.0	57 71.3

スポーツ	イ 足立区に誇りを持っている						あてはまる
	合計	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	
無関心層	244	52 21.3	67 27.5	92 37.7	17 7.0	16 6.6	119 48.8
関心層	221	45 20.4	73 33.0	79 35.7	13 5.9	11 5.0	118 53.4
行動層	504	106 21.0	160 31.7	169 33.5	35 6.9	34 6.7	266 52.7
その他	78	14 17.9	25 32.1	23 29.5	7 9.0	9 11.5	39 50.0

6 3分野全体の分析

(1) 3分野を横断した分析まとめ

スポーツと文化芸術との関連

- 文化芸術の「関心層」の中で、スポーツ分野にも「関心がある層 (28.7%)」は、「スポーツに無関心な層 (23.0%)」を上回っている。
- スポーツ分野の「関心層」のうち、文化芸術への「関心層 (33.5%)」は、「文化芸術に無関心な層 (26.0%)」よりも多くなっている。また、すでにスポーツを実施している「行動層」においても、文化芸術への「関心層 (21.1%)」が「無関心層 (17.2%)」を上回っている。
- 文化芸術とスポーツの関連性から、例えばスポーツイベントの会場で文化芸術に触れる企画を実施するなど、スポーツに関心・行動がある層に対して文化芸術のアプローチを行うこと (またはその逆) で、それぞれの「行動層」を増やす効果が期待できる。

読書習慣 (行動) から文化芸術への波及効果

- 読書分野の「行動層 (実際に本などを読んでいる層)」のうち、文化芸術への「関心層 (25.5%)」は、「無関心層 (11.9%)」よりも高くなっている。
- すでに読書習慣が定着している「読書の行動層」に向けて、図書館や書店などで文化芸術に関する情報発信やイベントへの誘導を行うことで、読書を入り口として文化芸術の「行動層」へと移行させるアプローチが有効と考えられる。

(2) 3分野とウェルビーイングの関連性【新規】

- 各分野への関心度と足立区での生活の満足度合いをみると、文化芸術、読書、スポーツ、その他のいずれかに関心がある層では、生活への満足度が6割以上と、特に関心のある分野がない層と比べて、割合が高くなっている。
- 文化芸術、読書、スポーツなど、何らかの分野・内容に関心のある層ではウェルビーイングが高い傾向にあると考えられる。
- 各分野の課題 (関心はあるが行動に移せていない等) を解決するためには、単一の分野の中だけで施策を考えるのではなく、他の分野への関心・行動と組み合わせる、巻き込むという分野横断的な視点が非常に重要となる。
- 特に、「読書の行動層」や「スポーツの行動・関心層」をターゲットとして文化芸術への参加を促すなど、すでにアクティブな層や別の関心を持っている層へアプローチをかけることが、区民全体の行動を効果的に押し上げ、ウェルビーイングの向上につながると考えられる。

(3) 関心・行動の傾向から見る分野間の関連性

一般区民向け調査

文化芸術分野との関連

- 文化芸術分野の「関心層」のうち、スポーツ分野への「関心層 (28.7%)」は「無関心層 (23.0%)」よりも多い。「文化分野の関心層」に対する「スポーツ分野の関心層」へのアプローチにより、「行動層」へ移行する可能性が考えられる。

【文化】関心・行動の分類×【読書】関心・行動の分類

		【読書】関心・行動の分類					
		合計	無関心層	関心層	行動層	その他	無回答
【文化】 関心・行動の 分類	無関心層	256	52 20.3	5 2.0	67 26.2	129 50.4	3 1.2
	関心層	265	32 12.1	5 1.9	143 54.0	81 30.6	4 1.5
	行動層	448	13 2.9	2 0.4	314 70.1	113 25.2	6 1.3
	その他	69	8 11.6	0 0.0	19 27.5	41 59.4	1 1.4

【文化】関心・行動の分類×【スポーツ】関心・行動の分類

		【スポーツ】関心・行動の分類					
		合計	無関心層	関心層	行動層	その他	無回答
【文化】 関心・行動の 分類	無関心層	256	80 31.3	59 23.0	88 34.4	16 6.3	13 5.1
	関心層	265	61 23.0	76 28.7	108 40.8	15 5.7	5 1.9
	行動層	448	81 18.1	74 16.5	251 56.0	33 7.4	9 2.0
	その他	69	7 10.1	9 13.0	43 62.3	9 13.0	1 1.4

読書分野との関連

- 読書分野の「行動層」のうち、文化分野への「関心層（25.5%）」は「無関心層（11.9%）」よりも多い。「読書分野の行動層」に対する「文化分野への関心層」へのアプローチにより、「行動層」へ移行する可能性が考えられる。

【読書】関心・行動の分類×【文化】関心・行動の分類

		【文化】関心・行動の分類					
		合計	無関心層	関心層	行動層	その他	無回答
【読書】 関心・行動の 分類	無関心層	115	52 45.2	32 27.8	13 11.3	8 7.0	10 8.7
	関心層	12	5 41.7	5 41.7	2 16.7	0 0.0	0 0.0
	行動層	561	67 11.9	143 25.5	314 56.0	19 3.4	18 3.2
	その他	401	129 32.2	81 20.2	113 28.2	41 10.2	37 9.2

【読書】関心・行動の分類×【スポーツ】関心・行動の分類

		【スポーツ】関心・行動の分類					
		合計	無関心層	関心層	行動層	その他	無回答
【読書】 関心・行動の 分類	無関心層	115	51 44.3	21 18.3	34 29.6	2 1.7	7 6.1
	関心層	12	6 50.0	3 25.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0
	行動層	561	102 18.2	108 19.3	295 52.6	44 7.8	12 2.1
	その他	401	90 22.4	91 22.7	174 43.4	35 8.7	11 2.7

スポーツ分野との関連

- スポーツ分野の関心層のうち、文化分野への「関心層（33.5%）」は「無関心層（26.0%）」よりも多い。「スポーツ分野の関心層」に対する「文化分野への関心層」へのアプローチにより、「行動層」へ移行する可能性が考えられる。
- スポーツ分野の行動層のうち、文化分野への「関心層（21.1%）」は「無関心層（17.2%）」よりも多い。「スポーツ分野の行動層」に対する「文化分野への関心層」へのアプローチにより、「行動層」へ移行する可能性が考えられる。

【スポーツ】関心・行動の分類×【文化】関心・行動の分類

		【文化】関心・行動の分類					
		合計	無関心層	関心層	行動層	その他	無回答
【スポーツ】 関心・行動の 分類	無関心層	254	80 31.5	61 24.0	81 31.9	7 2.8	25 9.8
	関心層	227	59 26.0	76 33.5	74 32.6	9 4.0	9 4.0
	行動層	513	88 17.2	108 21.1	251 48.9	43 8.4	23 4.5
	その他	82	16 19.5	15 18.3	33 40.2	9 11.0	9 11.0

【スポーツ】関心・行動の分類×【読書】関心・行動の分類

		【読書】関心・行動の分類					
		合計	無関心層	関心層	行動層	その他	無回答
【スポーツ】 関心・行動の 分類	無関心層	254	51 20.1	6 2.4	102 40.2	90 35.4	5 2.0
	関心層	227	21 9.3	3 1.3	108 47.6	91 40.1	4 1.8
	行動層	513	34 6.6	3 0.6	295 57.5	174 33.9	7 1.4
	その他	82	2 2.4	0 0.0	44 53.7	35 42.7	1 1.2

(4) 各分野への関心度と生活における満足度【新規】

一般区民向け調査

ウェルビーイングとの関連性

- 各分野への関心と足立区での生活の満足度合いについてみると、文化芸術、読書、スポーツ、その他のいずれかに関心がある層は、「満足している」割合が65%以上となっている。一方で、特に関心のある分野がない層は、「満足している」割合が6割未満となっている。

各分野への関心度と区での生活における満足度

		足立区での生活に満足している							満足している
		合計	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	無回答	
分野への関心	文化芸術	735	164 22.3	347 47.2	173 23.5	26 3.5	13 1.8	12 1.6	69.5
	読書	583	141 24.2	270 46.3	131 22.5	16 2.7	14 2.4	11 1.9	70.5
	運動・スポーツ	763	191 25.0	344 45.1	171 22.4	28 3.7	13 1.7	16 2.1	70.1
	文化芸術、読書、 運動・スポーツ以外	155	38 24.5	67 43.2	38 24.5	5 3.2	5 3.2	2 1.3	67.7
	特に関心のある分野はない	93	21 22.6	31 33.3	21 22.6	8 8.6	9 9.7	3 3.2	55.9

※「満足している」の割合は、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計